

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90



和漢船用集卷第九目錄

目錄

有舟形無用之部  
有舟圖無形之部  
七夕之為舟之部  
非舟為舟之部  
非船比舟之部  
有舟名別物之部  
苦船之事



和漢船用集卷第九

金澤兼光編集



有舟形無用之部

破船

日本紀敏達天皇二年高麗使人越海破船

淮南子曰水戾破舟宋史軍々破船と得く

りりようじといへり

序破舟

文載集ふりこワをみのれりてとよめり

敗船

三體詩 秋萍滿敗船

游涉製

漏船

舟中滲てのうねる船 吳子曰善將者如坐漏船之中

戰國策曰塞漏舟而輕陽候之波則舟覆矣

# 斤破舟

院印製

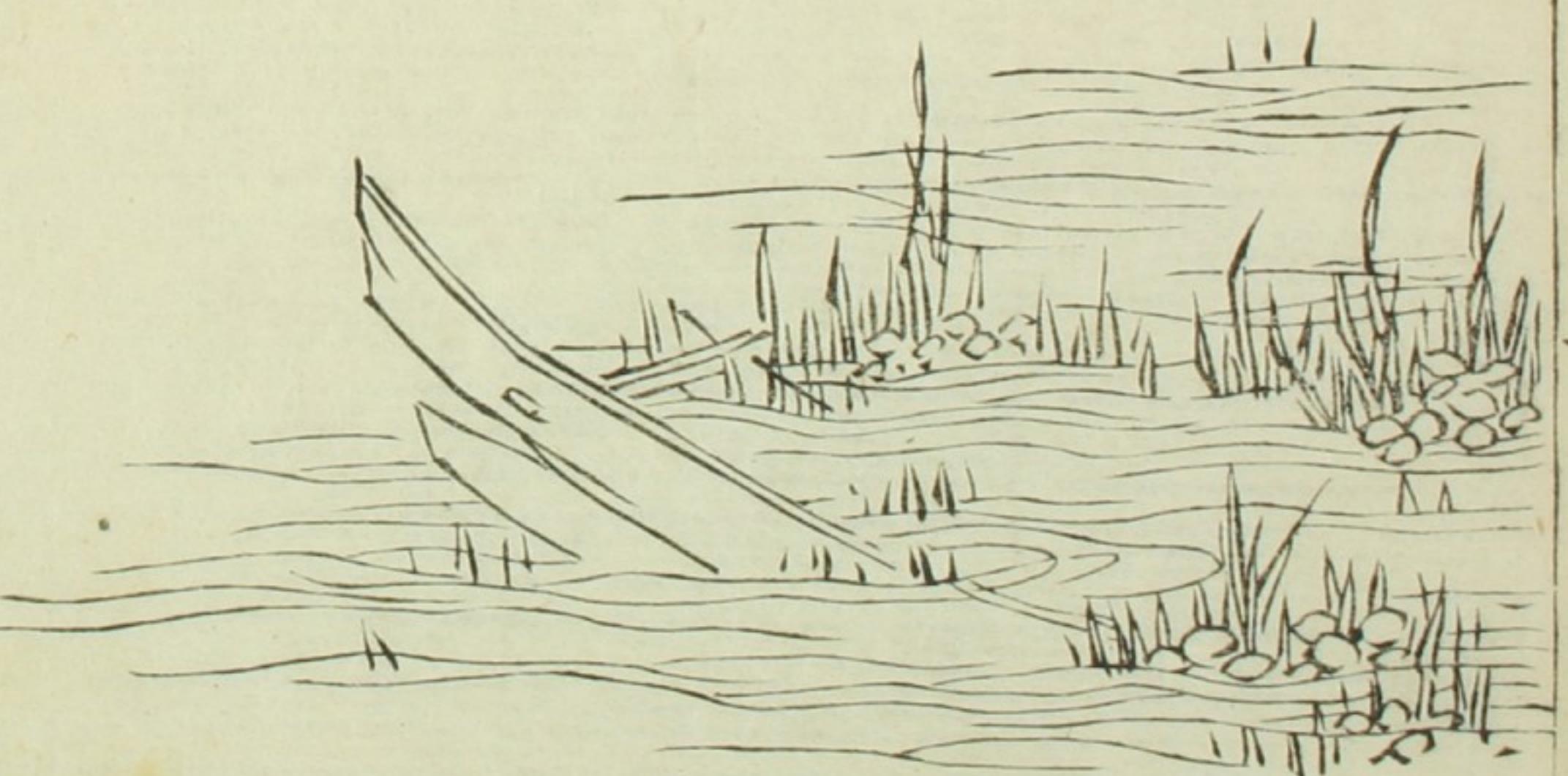
王葉  
浦うちき

入にゆきつゝ

ワニの

これそくだけく

人ハ意



## 大古舟

彦垣まよ人のりぬ舟たりひづふみゆえり  
いよをきかとつきとせきとれやろとハミキリ

ラホロ

## 朽舟

木本  
ともまれはとまうにあらわちあればて一房をさす  
新き

## 破損船

ハソ  
或ハ怪俄舟と云海河と云其間よりきてやふれ換す

同

者小火後也とくへてのり大破又若者のみる舟

後折船

と舟と舟とくもゆるあらへ小火ありの波よもやれぬ

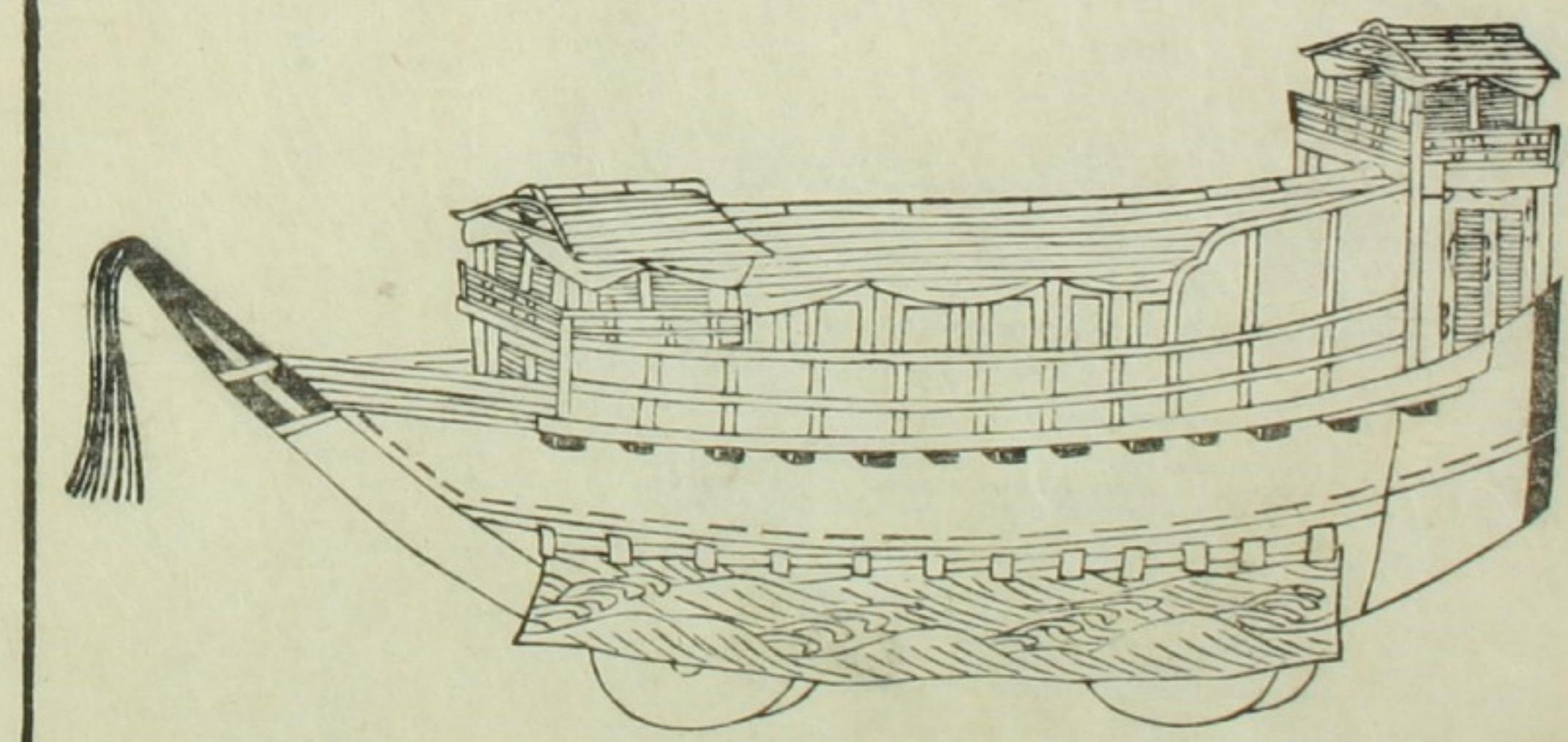
## 解舟

接州大坂弓波庄船解舟町行りのれまつみと解て  
買ひに用く家屋の材とん

風雅

こと浦よ朽く折る弓まどあ我方よひく波もうりうり

# 籠舟



## 籠舟

カゴ  
祇園會舟等と云の如也神事又用くり舟と  
云排列浪花わたり船車より行かゆり舟  
の如きとづくして飾りとくとも内ハ空たりがよ  
参考レント

## 有圖無形之部

### 寶船

タカラ  
は寶といふよりこれハ恐名コトテ云々名ともモ  
一丸はさるときハおのく船なりこうに幸也不ハ  
か邦除夜よりとあまセ福神と号一室と稱のみ也  
廻文をとけり其畫と文の如きの如きと圖え又  
後陽成院御靈廟筆の宝船と世より其圖を写一載レ

寶船古圖



後陽城院御震筆



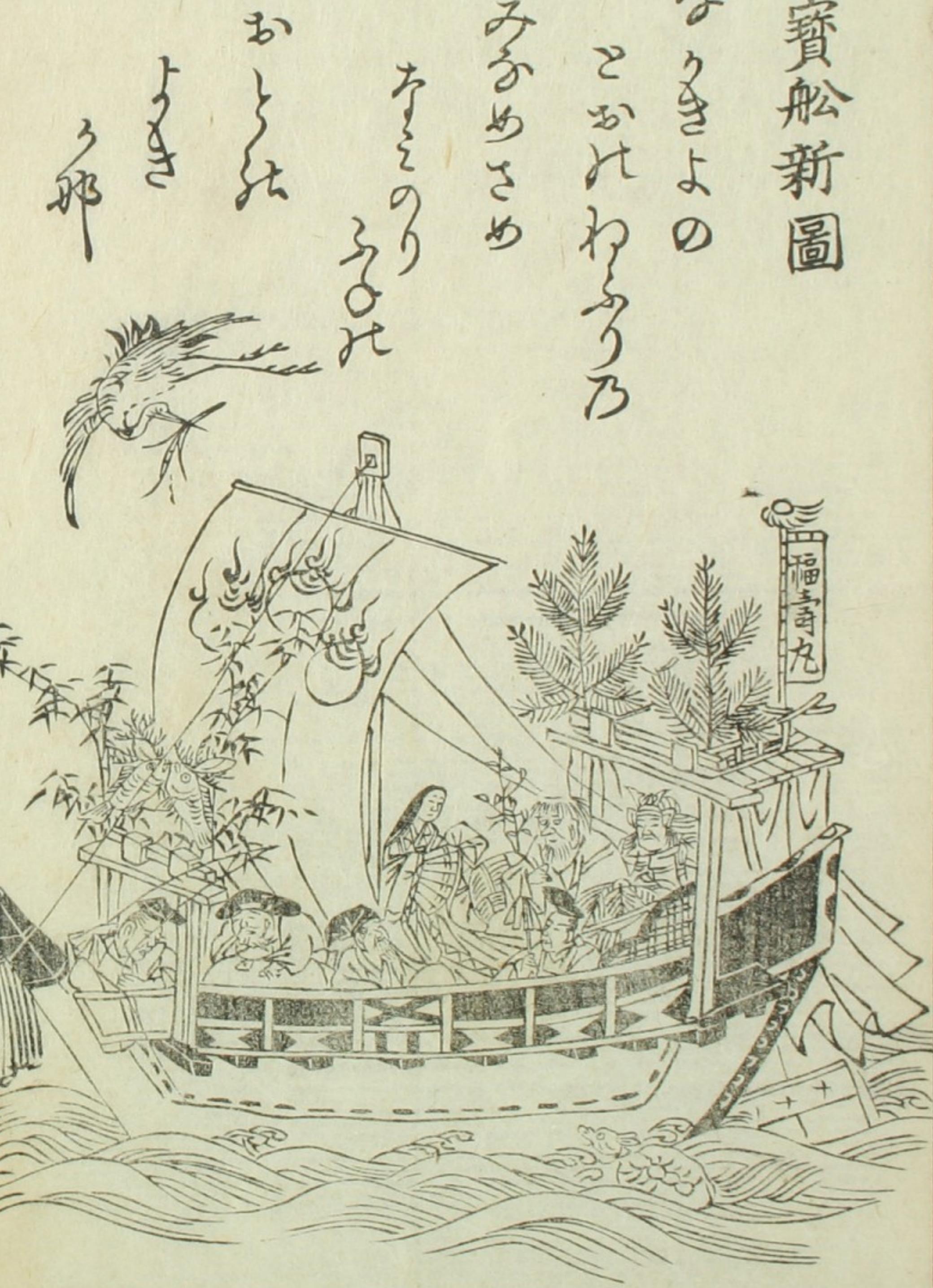
寶船新圖

さうきよの

とかれわやう乃

みかめさめ

すまのり ふみ



寶船

毛ハあよ云寶船二ハ回宝別表たり當麻中將始  
曼多羅寶池段ニ左右の船行毛と寶船云

右有寶船注ニ私祝曰此船中有塔九輪四方有綱四綱於  
娑婆者塔為中央表四佛四智淨土因順餘方也頂上有似

蓋方壇上有坐像三尊加蓋仰相來迎也二菩薩同合掌

也二童同棹艤右寶珠艤似龍尾

左有寶船注私釋曰此船中方壇上有天蓋三尊壇

尾上有小塔前有小童其下有菩薩合掌而坐右二童同

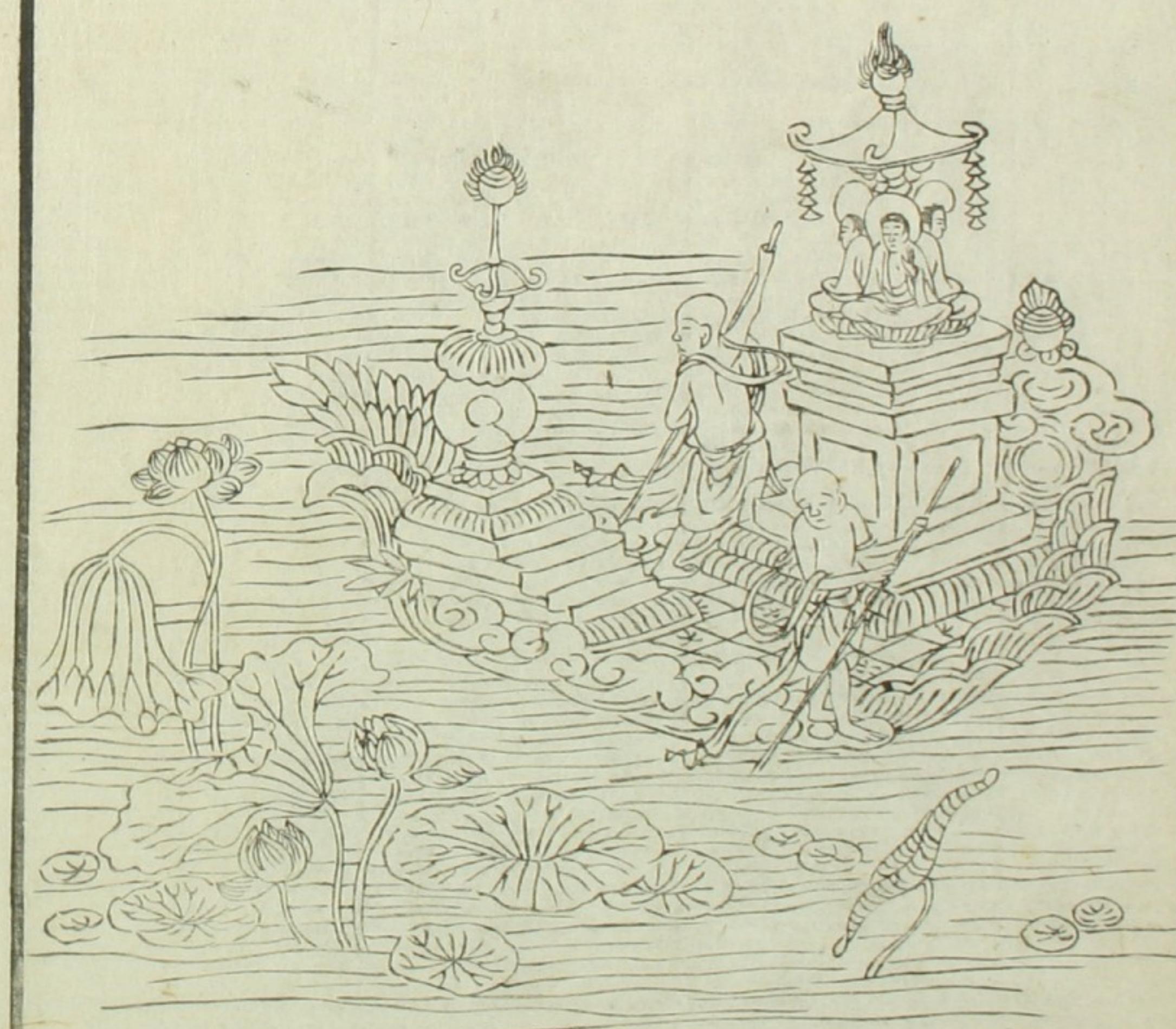
棹三尊仰相同右古注此二船名龍頭鷁首云是一旦也實龍頭鷁

首捺而船異名也其故祝船馴水名龍鷁水鳥名以船似鳥名也

毛彦集注毛云とよら

さうきよのじよくのじよく舟の毛の面致よううひゆうす

右寶船



左寶船



## 遊歷船

當曼陀羅當曼白記曰寶船觀經未見答文無義有義者既有

多順釋文但此船亦見釋文般舟讚曰寶樹飛花沉德水童子捉取己為船乘船直入蓮花會云大如此文寶樹花落寢船又沙門仲默為蓮舟蓮花即舟因乘名舟歟水歡詩曰只待蓮舟促到家矣抑船起者於和朝天神七降地神初也又於唐朝者黃帝貨狄見楊一葉浮水作代時天盤橡樟船王姬時是船神也此神姿女變作船天船云今此以二船顯極樂海會船多此船淨土莊嚴有德一聖衆遊曆具也一娑婆來迎臭也於娑婆号大願船ト

## 大願船

清淨覺經曰阿彌陀佛與觀音勢至乘大願船沉生死海就此娑婆世界呼喚衆生令上大願船送

着西方若衆生肯上大願船者並得去

## 七寶船

綽禪師歸依曇鸞法師祈往生頃唐貞觀三

見鸞法師於空中乘七寶船指道綽曰汝于淨土堂宇成但唯報命未盡耳復見化佛菩薩飄在空衆爲驚歎大生信服雖無種衆無佛聞提亦所服之

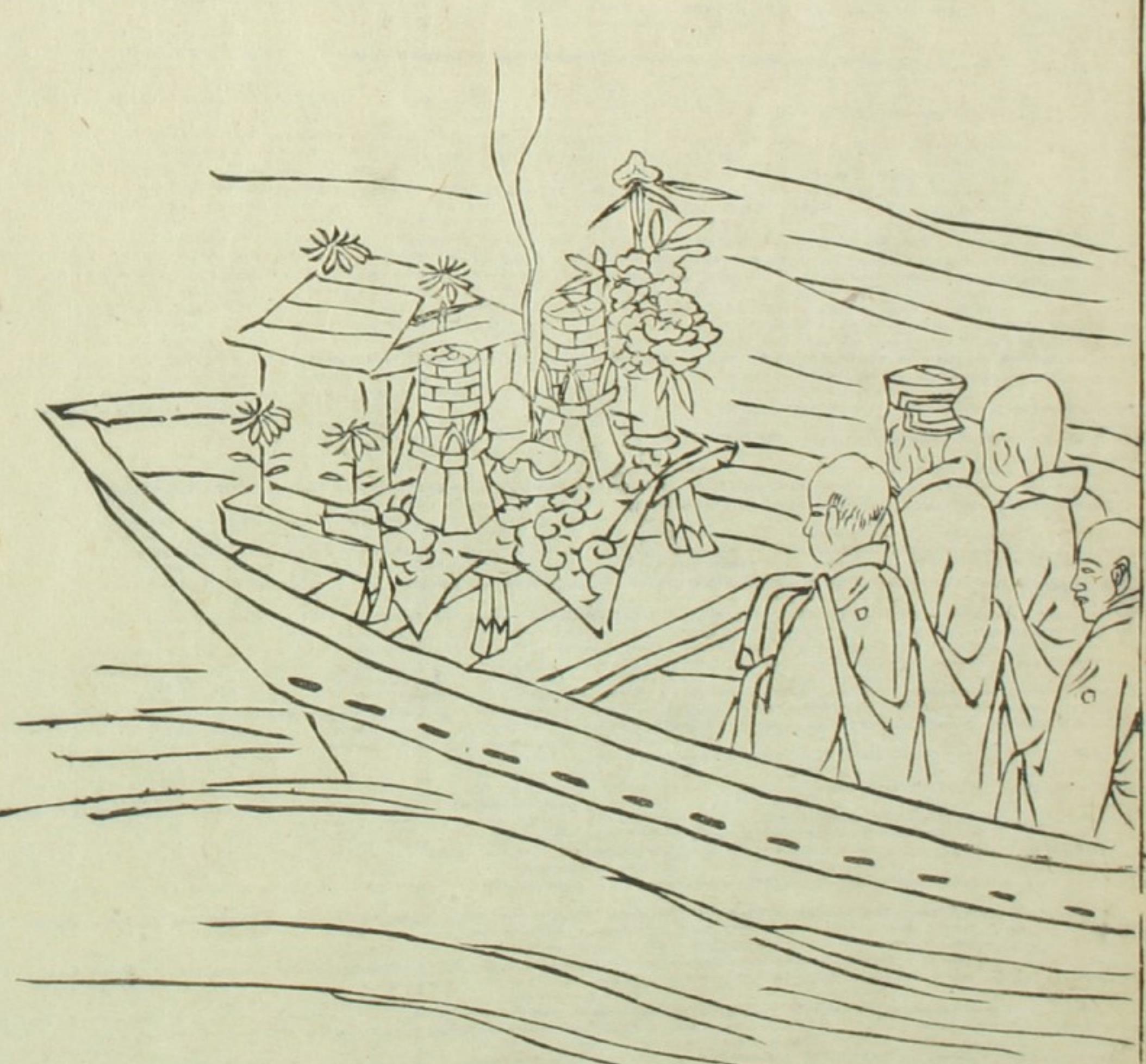
## 往生船

如道珍法師夢往生船

波羅密船華嚴經曰以波羅密船於生死流中不依此岸不着

波羅密船彼岸不往中流而度衆生無有休息

# 法舟



## 法舟

内德論曰馮法舟而利濟トクタルといひ耶と比していり

允流灌頂ヨウリュウカンドウホ船中ホその法事或ハ傍ヨウ左ニのまわれ

舟ボウ云ヒテ一法のまほの舟法の舟法の舟法の舟法の舟

舟法の舟法の舟法の舟法の舟法の舟法の舟法の舟法の舟法の舟

夫本ツム東海タカヒの四法の舟法の舟法の舟法の舟法の舟法の舟

夫本ツム東海タカヒの四法の舟法の舟法の舟法の舟法の舟法の舟

夫本ツム東海タカヒの四法の舟法の舟法の舟法の舟法の舟

夫本ツム東海タカヒの四法の舟法の舟法の舟法の舟法の舟

## 慈航

清涼法師曰大般若者苦海クシ之慈航

## 四等船

實始シトウ四等船不無誰渡シハ苦海クシ是士農工商の

弘誓言クセイノ船法を經普門不無誓源シヨウゲン海の文モニ蘊極モニ



弘誓船



ちうひの舟といつてハモサヌ衣生と彼等もよろこぶんとち  
クシジイ弘誓云のゆか也二十又の善薩<sup>カク</sup>樂と奉<sup>ソウ</sup>一聖<sup>セイ</sup>  
未途して捨<sup>コクラクニヤウト</sup>淨<sup>イシニヤウツ</sup>云引倡の國<sup>ツ</sup>うり此世の苦海<sup>クカイ</sup>を渡<sup>ワタ</sup>  
方<sup>カタ</sup>の身<sup>キレ</sup>よつづれ秋氏完悟の弘<sup>モクレカイ</sup>行<sup>セシハツ</sup>哉<sup>ナリ</sup>

全<sup>ミツ</sup>

彌陀之淨舟

ミタノミフ子 三浦義村<sup>ミウラヨシムラ</sup>彌陀未途<sup>ミタノミフ子</sup>の取扱<sup>ミタノミフ子</sup>と經營<sup>ミタノミフ子</sup>淨蓮

幕<sup>マグ</sup>とけりに金銀玉<sup>ホウ</sup>七宝<sup>ヨウボウ</sup>法嚴<sup>ヨウガウ</sup>のあく<sup>ヨウガウ</sup>此世<sup>カイ</sup>也

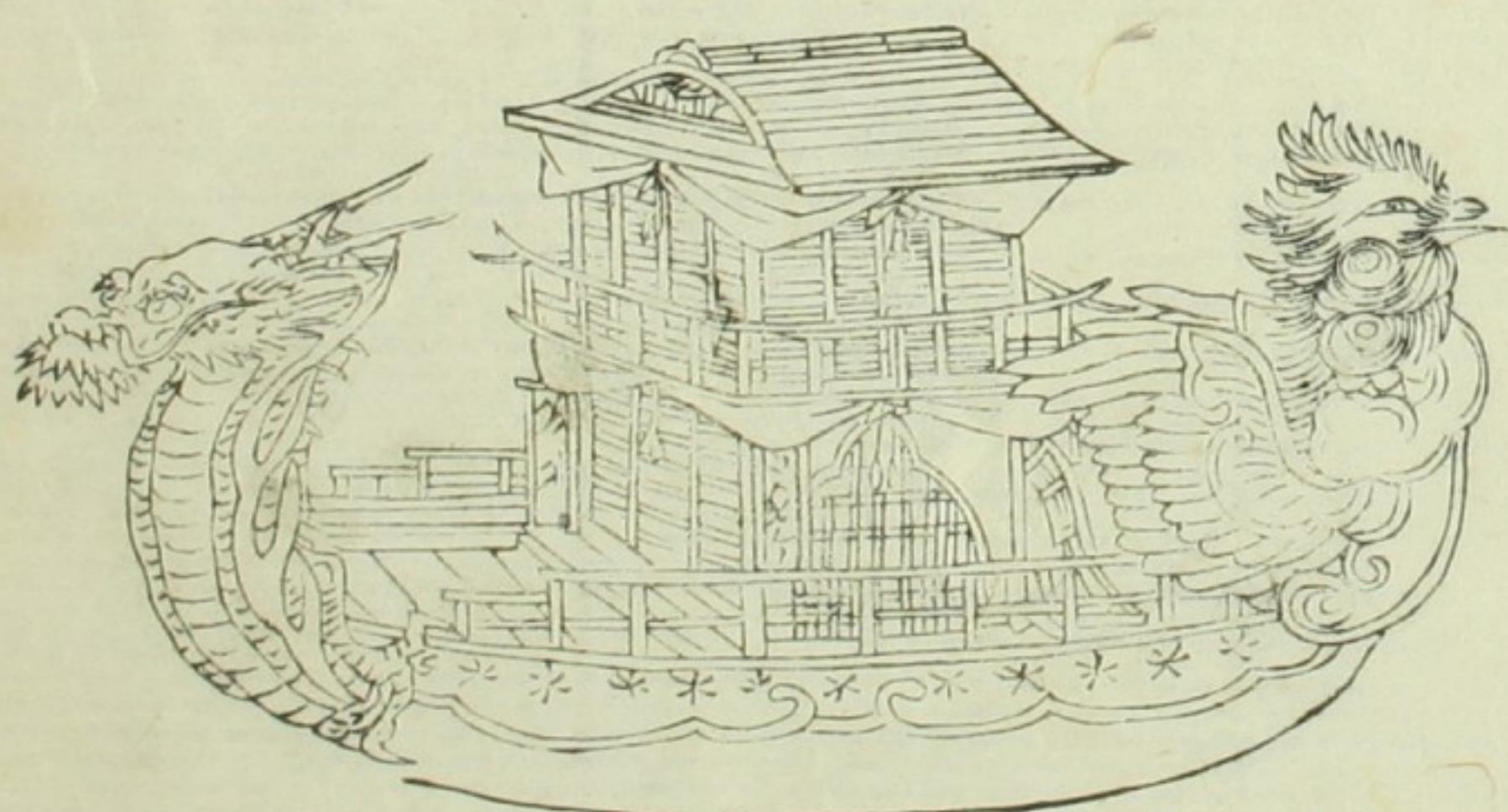
風<sup>カク</sup>もく<sup>モク</sup>よう<sup>ヨウ</sup>とくと淨<sup>セイ</sup>金<sup>カネ</sup>二代<sup>ニダ</sup>也<sup>モク</sup>アヘア

凡<sup>ミツ</sup>

いそ<sup>イソ</sup>人<sup>ヒト</sup>淨<sup>セイ</sup>院<sup>イニ</sup>の舟<sup>ボウ</sup>あれか<sup>アヘア</sup>世<sup>セイ</sup>も<sup>モ</sup>衣<sup>イ</sup>生<sup>シ</sup>と<sup>ト</sup>彼<sup>ヒ</sup>等<sup>ド</sup>も<sup>モ</sup>よろ<sup>ヨロ</sup>こ<sup>コ</sup>ん<sup>ン</sup>と<sup>ト</sup>ち

聖<sup>セイ</sup>德<sup>テク</sup>を<sup>ア</sup>ふ

龍頭鷁首之船



龍頭鷁首船

リヤウトウキニユウチ 龍頭鷁首のとあをみんべつてある

そハ船と船頭か一軸と鷁首よつて高昂一

又ハ小船舟造る者経りノ和州法澄も大度の中より觀  
ヨシセイレ 売勢の二善薩比像のうつまくをモテテ舟行り船頭  
鷁首と一物と云ひてすらや市中看板ねホヌム化  
れり深のまへき放へ

### 七夕船之部

七夕舟 又星の私と云或ははーと後ろ附ハいつきの舟

さもまへー丸古舟よ後りちもどもろい舟

七夕舟 七夕の七夕の舟は船のまいく秋うきの舟れ玉すき

後がく

七夕舟

壬二

袁澄

七夕舟

新載

袁澄

天の川舟

久方の月れうの船とたえみてこゝる天の川舟  
公船

月夜舟

その川舟れは舟乃のやうせふみくえやまくまは  
中勞公二

秋の月舟

天の川秋の月舟の立くうまことまうとまうアム  
困毛

八十波舟

その川八十波の舟の舟よ一舟もせとれぢきり  
衣笠内太

天の雲舟

七夕の月れ舟とよひそ秋風ふきてまほよまほ  
衣浦

秋漁舟

浪のうをまきほ春星の秋うく舟の波のさハくう  
万葉

又漁舟

このタア海うう魚が春星れふくく舟のうれちうも  
万葉

えく舟

えく舟今こまくじて天の川舟立つて川のせよ  
日

附泊舟

その川八十波きり合春星舟附泊舟ハ今くらじ  
日

た小舟

日 春星の川舟とまうね舟の立くまとてんあやとまう

別の舟

生 七夕別乃舟のうちくせうく行くの川きり

海舟

貞和 春星の妻ひくまと海舟よせてうく浪あくまん

貝穂舟

衣笠内太 八雲舟ねよせタの舟とまくでうくア紫葉集よてくねくう

くくう舟乃舟とくとくとくとくとくとくとくとくとく

漁元舟の日くくくのハくく舟なりあまくくと食せく

かまくくたく舟をくとくとくとく

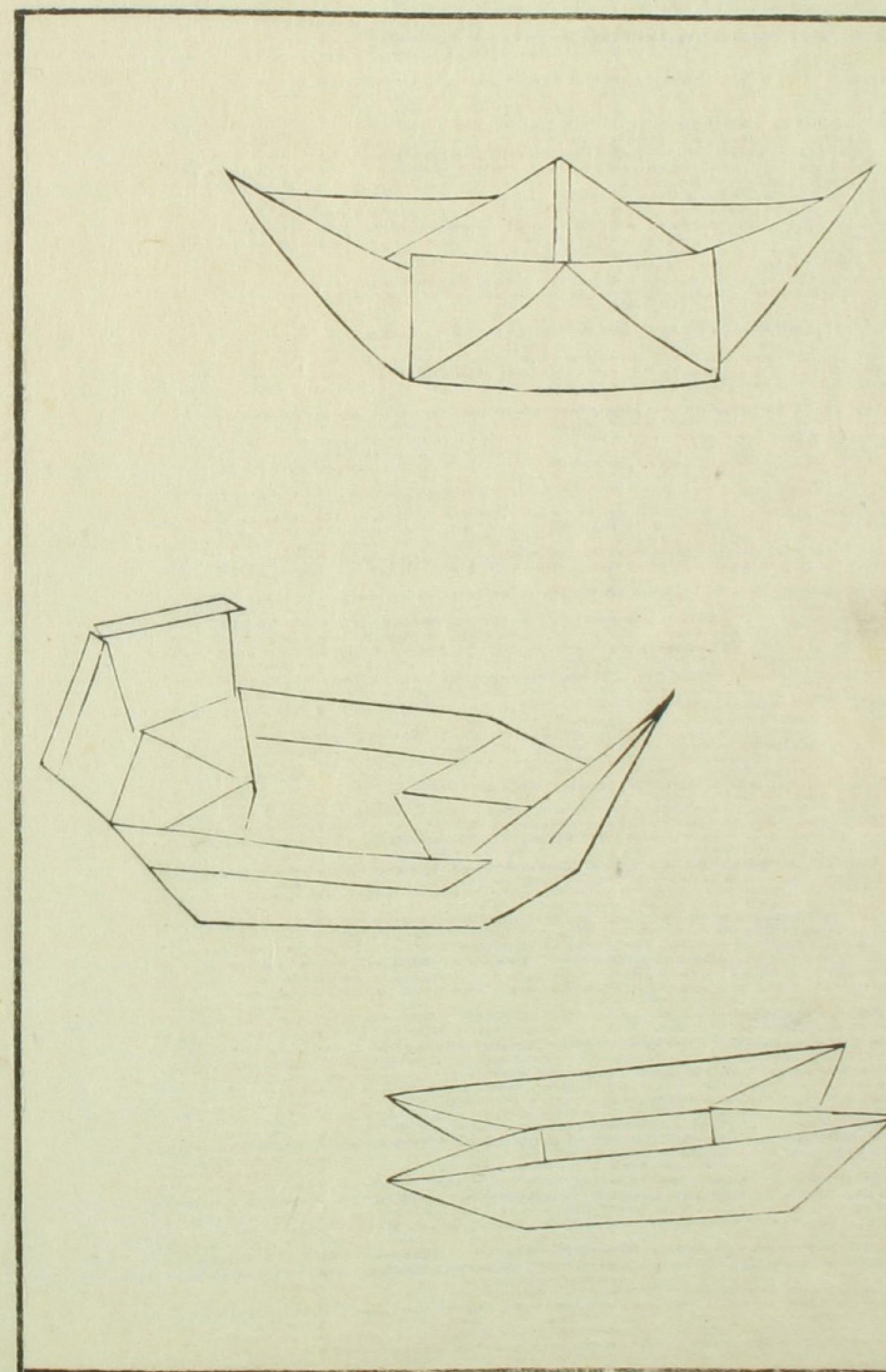
紙舟

カニ オホモヨ亮笑曰紙船耳といひ是ハ其破りあま

七種の舟のうくの家をまと舟を放てせよなたむく延と連体の書を名

七種の舟のうくの家をまと舟を放てせよなたむく延と連体の書を名

紙舟



非舟為船之部

葦船  
アレボウ

埴土舟  
ハニイチボウ

白歛皮船  
カヘンヒボウ

以上三名神異の物也委々キニモテ

土船  
ヂツボウ

オニの船也あらう唐數函小又雕也とアヘアリ晋

書云曰昔武侯の種山崩也く石完ニワアリ其一ハ

あと舟のトトモハ黒と漆のヒ一人赤完トアリ

名を名と勢相と云黒完トアリ赤完トアリ人争

て神と争ひと云ふ船也ほもとて廩也とせん也

勢相の争ひそりは人遂不見を廩也と争ひとえアリ

螺舟  
ラボウ

蠡舟  
レイボウ

貝船  
ガイボウ

注文三よアヘアリ

蓮葉舟 古文集曰大華峰頭玉井蓮開花十丈藕如  
船 又曰大乙真人蓮葉舟

蓮花舟 水歡詩あよアズム

虹舟 列仙傳云王仲都大白真人授以虹舟

採蓮船

同張金箔以紙剪作一一船

瓠船

莊子曰五石大瓠為舟浮于江湖

竹葉舟

異向實錄云陳季卿之友人有家在

焉故每游而乘之不以爲非也嘗與襄瀾之圖往之季卿指  
て曰此可謂得之矣達矣豈可謂之才也

經南山の翁行り翁も曰是かうむと余して行をす  
おもゆすはつ國のニミ立季卿とてつるくそせむ  
久て波浪あつ葉湖巨みうとと覺え恍がくと舟  
のりきくと旬飯とてあよめり更とて又舟みのり再  
セイリタレ サイサイ  
ま貌もよ遊ふ山氣尚褐と擁と座もうと立季卿  
う因夢よほくとや後よまよにあよつ来て日先日歸  
く治と西齋扇よ紙すと拂て夢よあくよろことを知とえ  
くう唐の李嶠う翁よ俠客像為劍仙人葉作舟  
木もせれわちれ舟をむやひづきよく風をとき  
け玄利者陰翳於山中をもののみとみて又みきとやあ  
とよやくとよよをもちうからせてあきとよらんとゆ

えきねひととみをまわはきくらむえすお捕本のまこと舟本たまく  
とハあくくもアキよやう中筋ニイレヨあターベルミミのみふう  
きくつとみをまわはきくらむてくらまうトドカラス又ゆ人の以本  
ス船トヨムサカヌケウサツコスベテ

舟舟比船之部

舟舟サハ雲はねよさてきのこやうある有竹蓋の舟に附  
書されともか遠あり行の蓋カゼを實ヨシとくら  
神也のつて而也凡あひの蓋舟れどくと小舟とさして舟の  
蓋舟と船ハモチハモキとたゞくと云あかり是ハ舟の蓋と云  
よはきる御り舟の蓋カゼをみどりあよう今くみせの遊戯と云

舟舟 二乘院漢詩

舟ホ  
うみひふう

流フうこう

舟舟ホ

とまりハ

きの

水舟ホ

うき

本葉船コノハフ子 因名お遠  
あ葉ふあ葉

白波小 奥風

秋の本葉北

ううう城

あア乃  
みうせく

みうとそ  
フヌ



藻舟モフ子 名教より無あり

於此

川の際せうすく見れハ身も前ぢりれう川の身くも人内

芥舟アグタフ子

莊子覆杯水於拗堂之上則芥為之舟置杯

焉則艸水淺而舟大也

酒色財船エニヨラサイン

後漢の楊秉ヨカシ 家叔ヤウヘイ 节字アサトシ 恒カク 帝トク

石かされニ公の大尉カク 官カク よのうり忠トク とあらられく桓帝カク

より太方タカ 朱ツ ともへれレ と名メイ を楊秉ヤウヘイ 生セイ 貨レツ 汤ハ とのまを負ヒシ

今カク また又アリ と書シテ て二度ドウ 丈人ジン をむくに名メイ 叫ケル ト

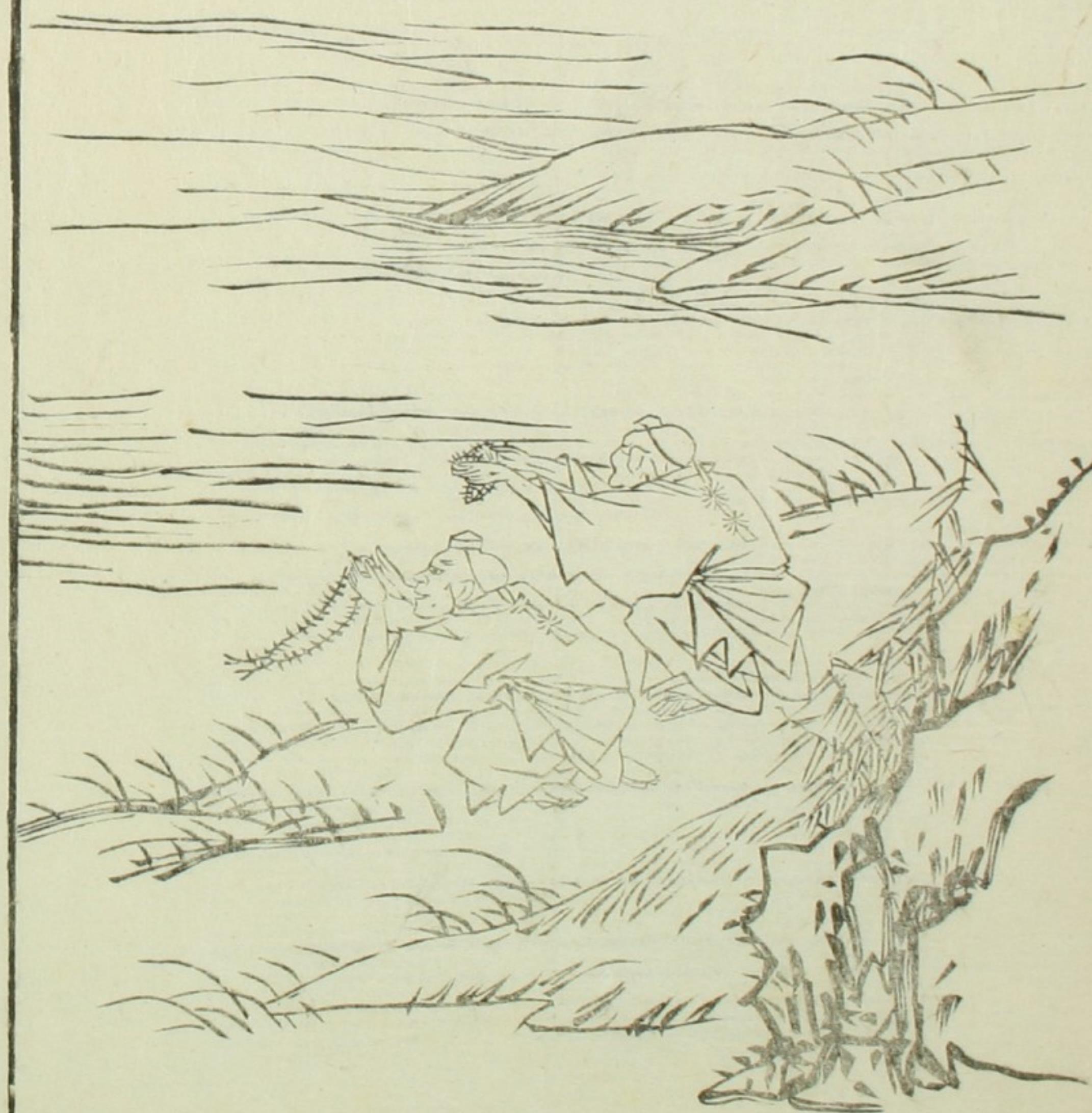
三ツミツ 感カク うりり酒サケ 定セイ 付ブ も酒サケ 人の心ハ と御メイ えハ觸タク らせぬム 貧ボシ

酒 色 財 船



也世に三物の字を以て舟の形を一圖にて敬戒とた  
芝舟シハブズ 本船放半因縁集より出羽の國大源村と云ひ度  
他方り毎年五月あり薬師佛と安置して  
四月八日よこれをまつる舟に十八箇も行り皆山伏  
なり所終ふる行りまつせよ此の舟のそん  
て大よひのものは芝田ス天祐子けくはようともわ  
ゆくやくそれとぞ毎年六月ウカヒナズくと  
よツふ志ハリハリしてモ芝田の西へはうりて心  
よカムハリハリへばく不ふ候のまつりをりと國よ  
ミヤみてえねきとアラマリ

芝舟



有舟名別物之部

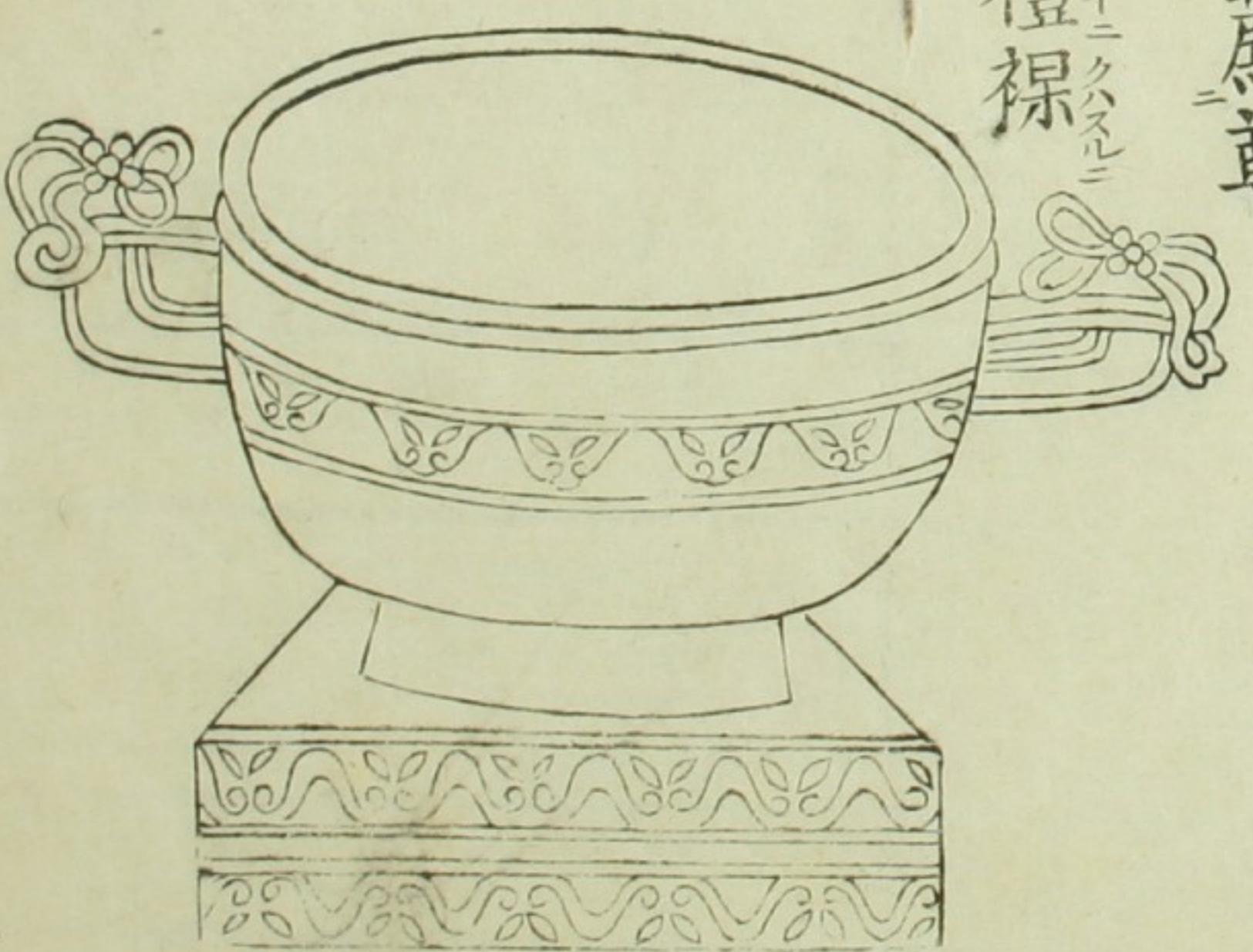
舟 宇彙曰尊下臺曰舟所以薦尊

與彝也如今之承盤周禮裸

用雞彝鳥彝皆有舟

博古圖及三方圖會云

委



御船 ミコ子 神道名目類聚抄曰遷宮の附御神體と園覆を

具布を以て是を仰る

屋船 ヤフ子 同抄曰御船代御鎮座本紀曰天材木屋船の靈と

云故ニ瑞舎と名付ケ屋船と号に縁有り

覆誓槽 ウケフ子 古語拾遺曰覆ハうつふけ也槽ハ酒あるを

筈桶のれあり日本紀祈或ハ誓言とキリケ

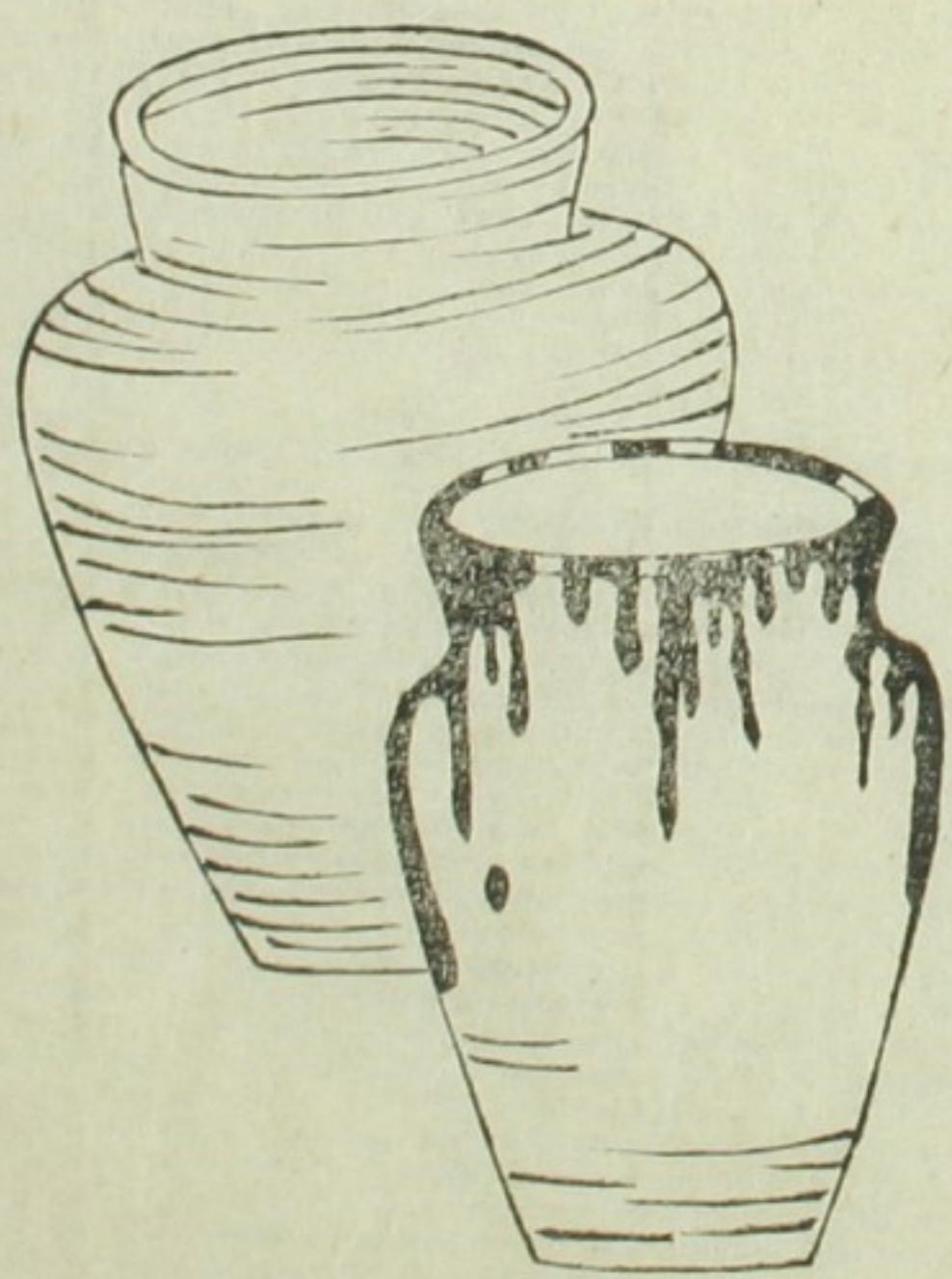
ヒトモ云古語宇家布祢誓約の意也

不上船 ウケフ子 むひきあそせど後ア杜甫詩よ天より呼來不上

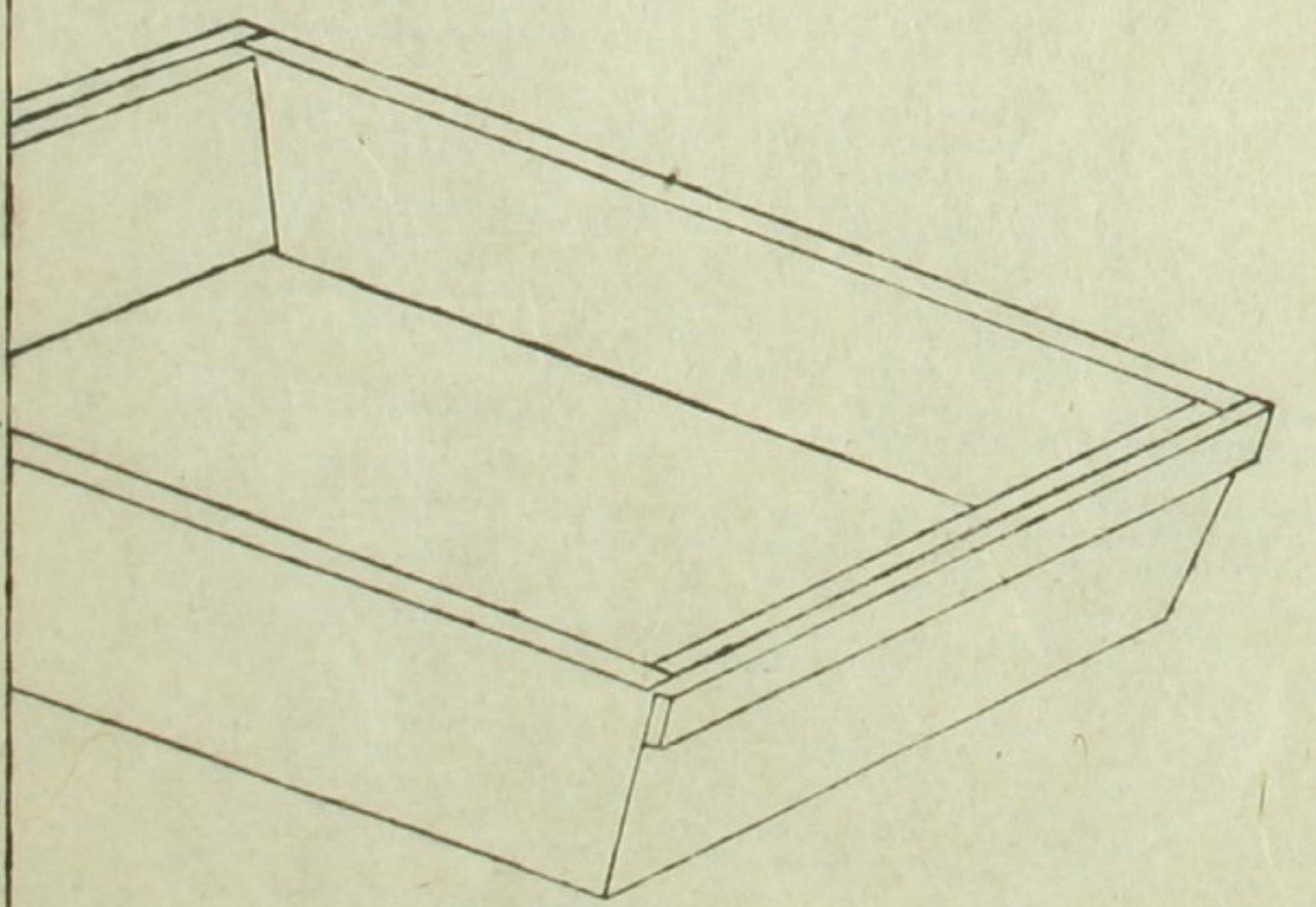
船泊ヌ衣領と帆と云

上水船 梁張洎為學士號急灘——

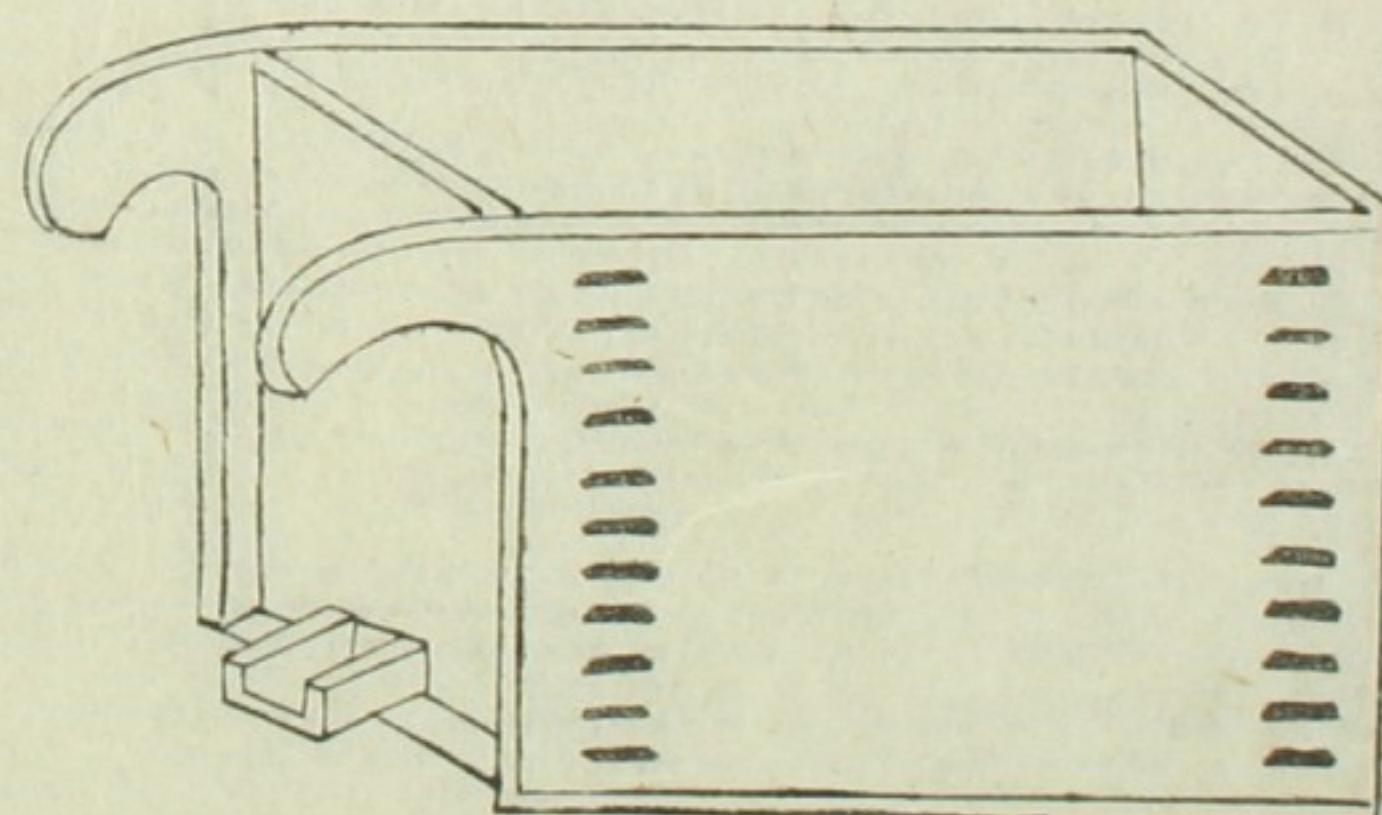
下水船 唐裴延裕文思敏達號——



酒船 名松 よろ高者コトては同字別物古事紀曰置酒船而每船盛其八鹽折酒アシホブリとアベマリ是博古圖カコミブホヒより有處の舟又多く壺壠ツオモタの舟也



米槽コメフク 船通ボウツ 用米とりとせ黑米也米船コメボウ と云ひて  
穀類といふの黒米也



酒槽サカフク 今酒舟とまことに通シテ 用酒と造スル の密密たりあく  
云酒舟又名板の酒舟サカボウ 云物曰字ナガシ て是別物也

餅槽モチフク 簾カスカ トルタリ ダイ  
餅モチ 槽フク 簾カスカ トクタク ウカモウカモ モ

茶槽

コメフク

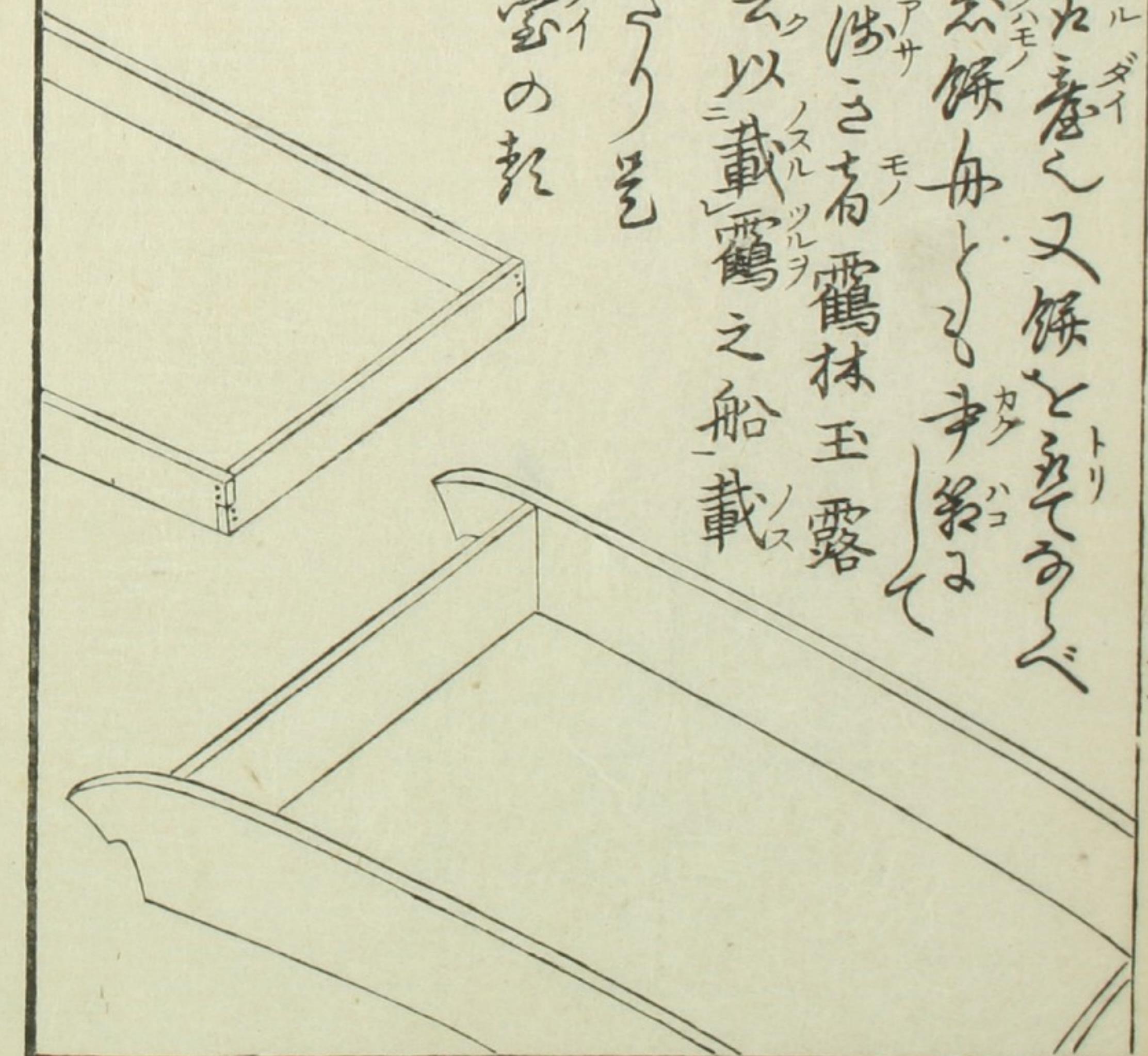
茶槽コメフク オリオリ ハシアサ モ

劉改之云以載鶴林玉露リウカイシ ノスルノスル ツルラツルラ カタハコカタハコ モ

書フク とト くク とト きキ

左邦サカナ 看ダ 基タ のノ 船ボ 載スル

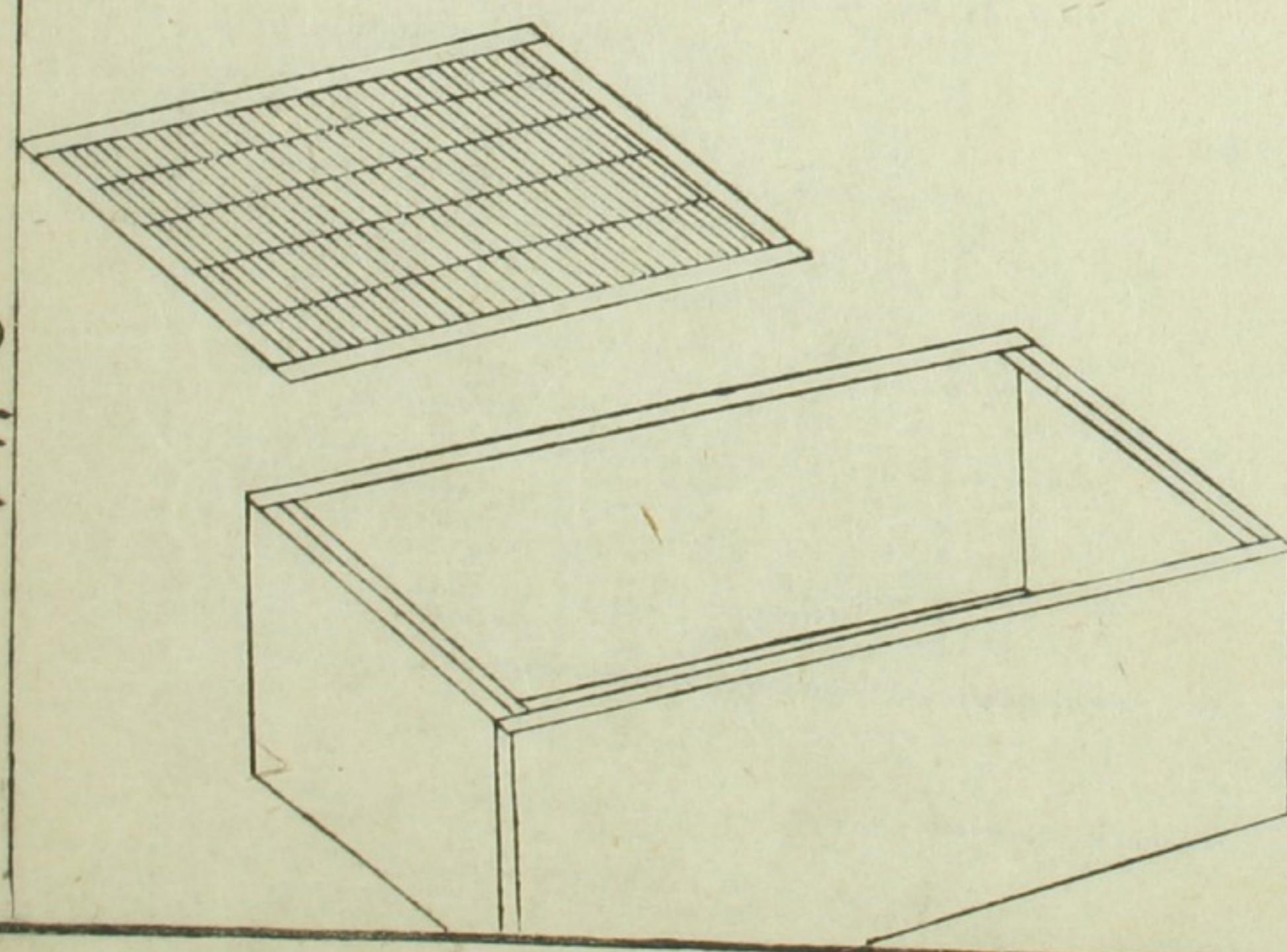
あく



抄紙槽カミスキフク

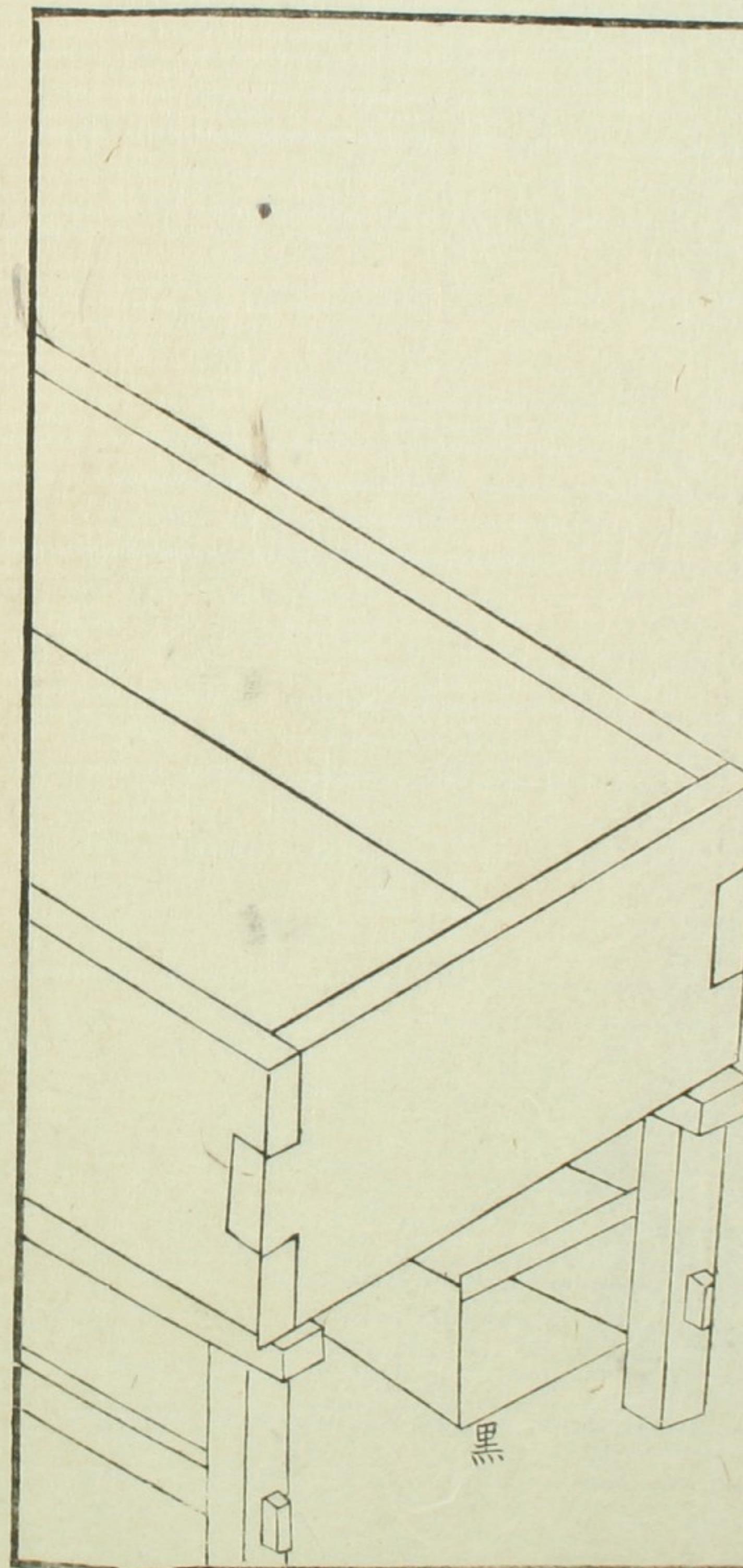
天工開物丸一一一上合方斗尺寸闊狹カミスキフク

視簾ミズマス



湯槽 ユ 温泉 ヨシ 等みの槽あり ヨク 槽と云

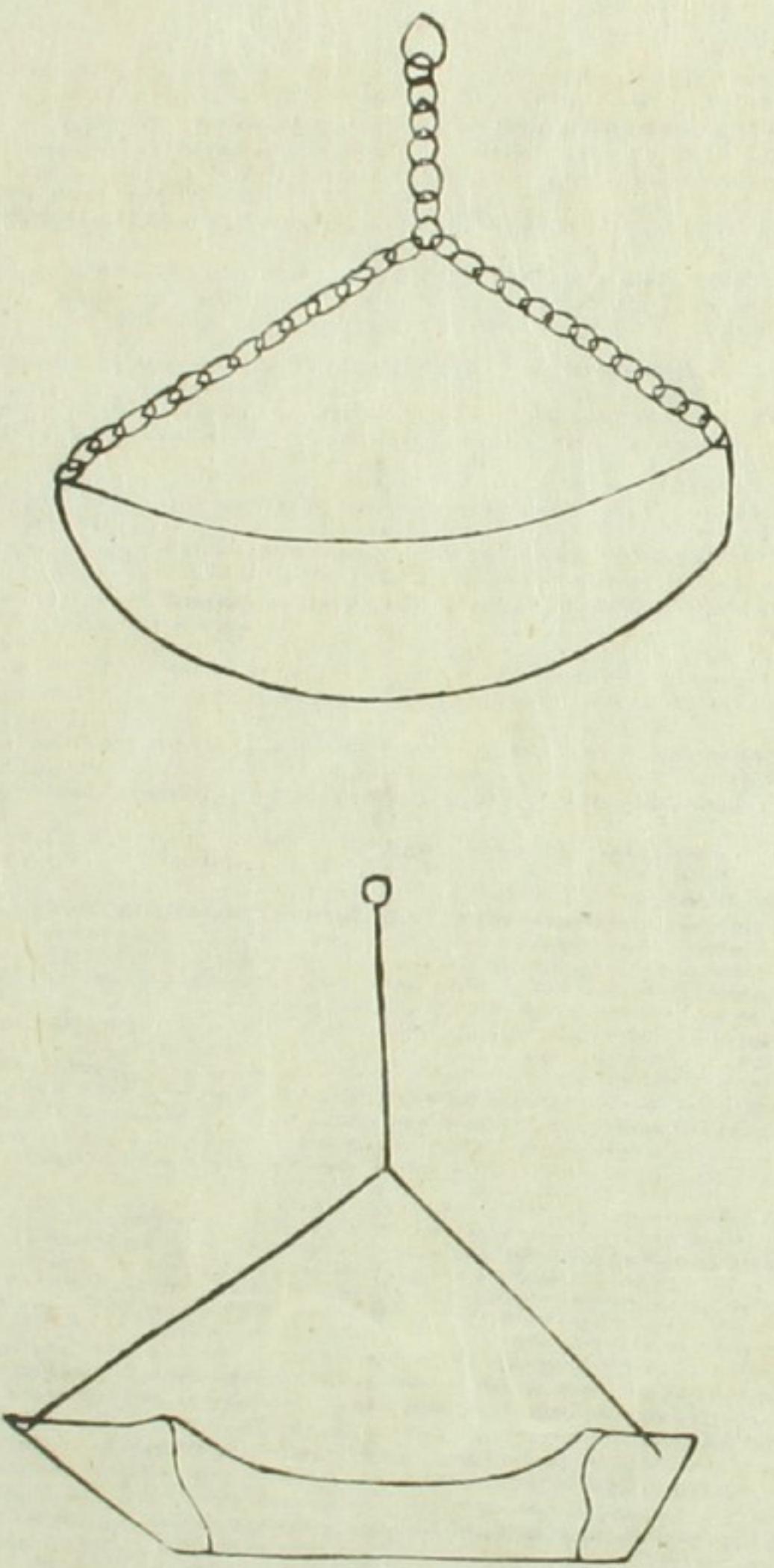
今聞名の湯舟と云



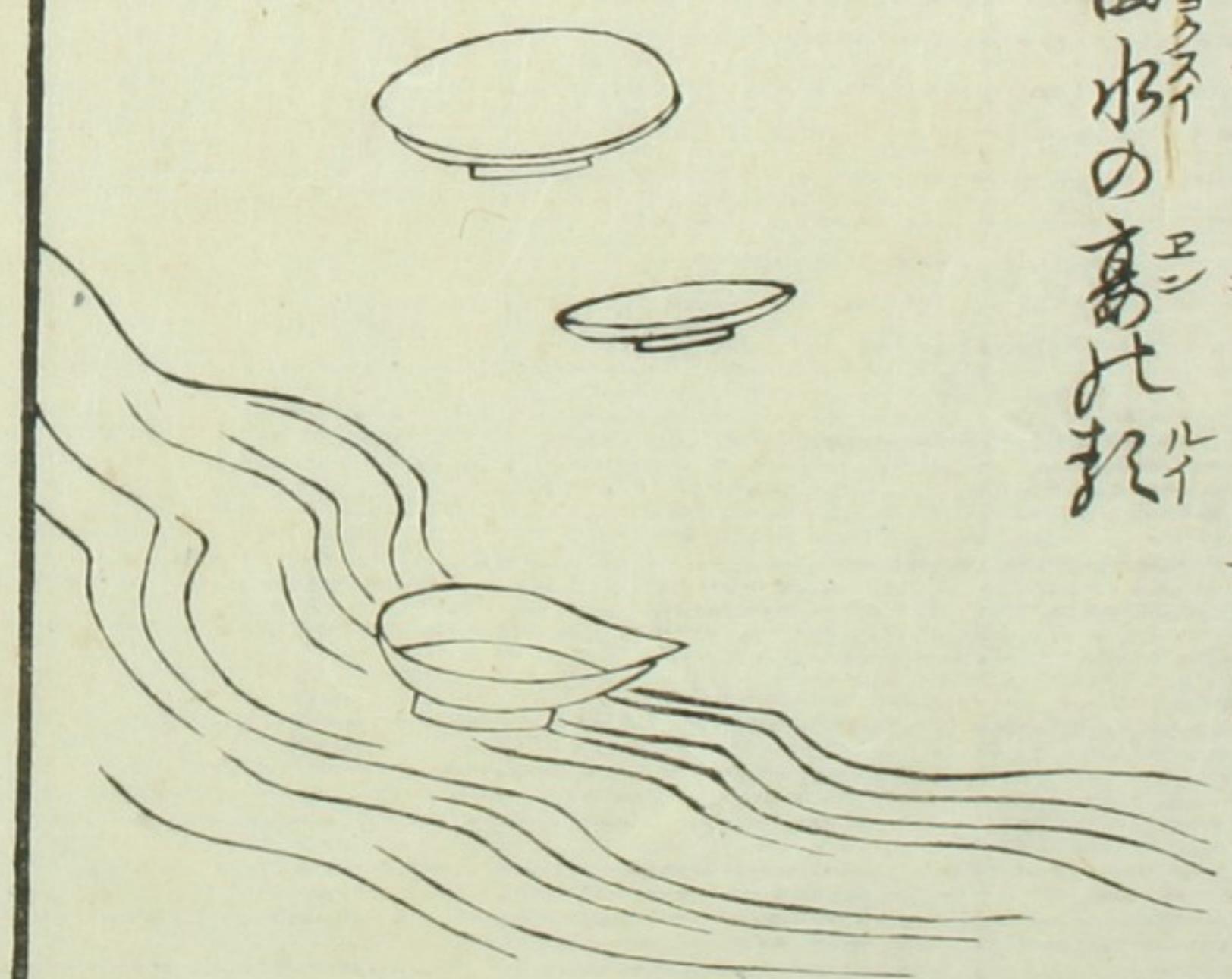
花生舟

ハナイケ ホノミ ふるむを生也度の或ハ行と修る

ツリハナイケ ツリハナ 花生舟か舟入舟泊舟と云ハ花の生舟也



觥船 スハヤセシ 三體詩觥船一棹百分空注ツクタウ曰一ハ酒盃也  
酒杯船 エバイ 集異紀ツクタウ作酒杯如船ハクヨウチ流于水上而飲ノム之  
蘭亭の社ランティ又云曲水イフカクスの高ヨシ也



生船 イナフ子

御也第又水文活魚イケウラと書者放ヤシモト又水船也  
云又船の形ふう一或ハ第又イナフ子てあゆきを

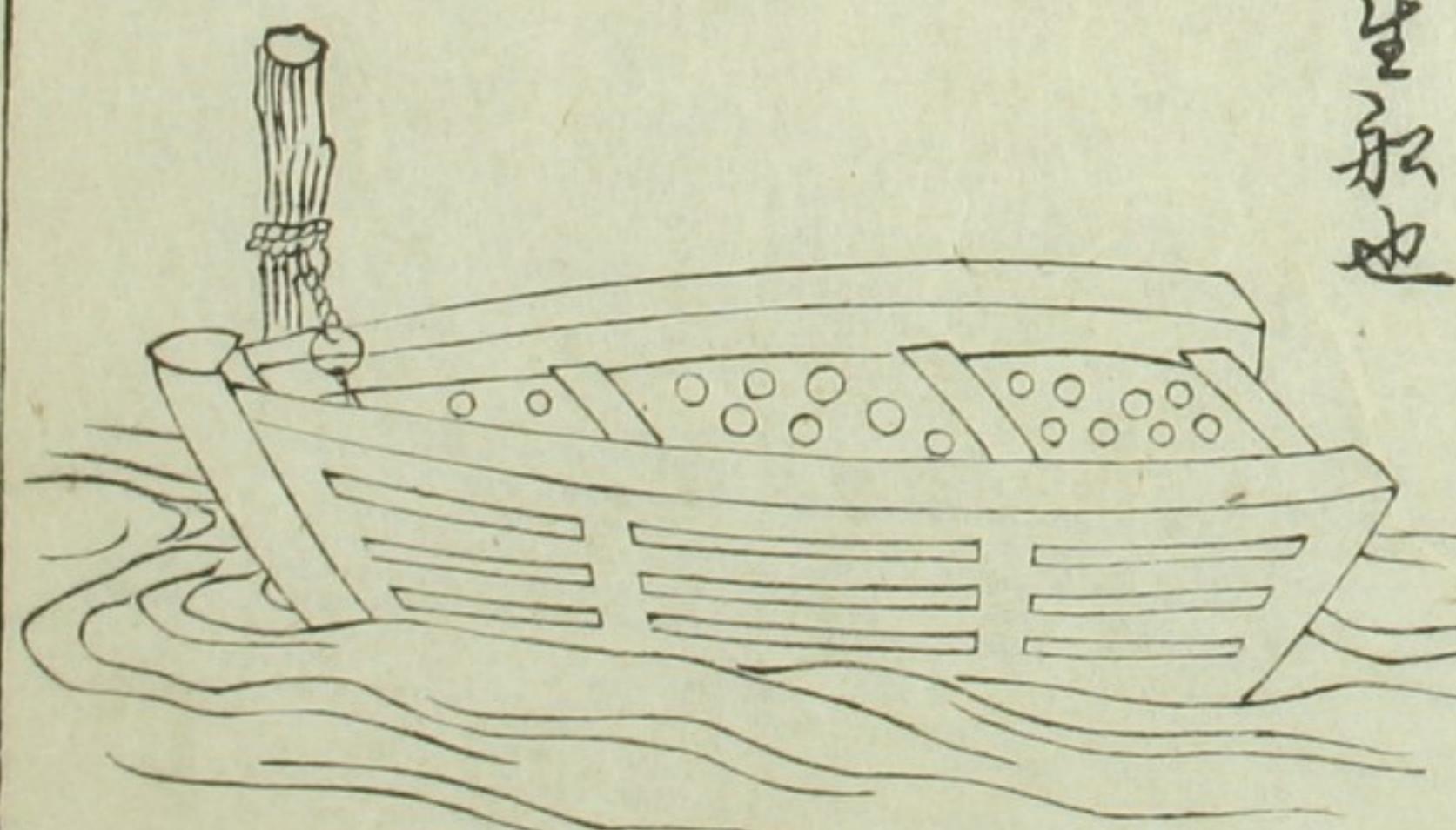
支本

水船スハヤ又マサニ水文活魚イケウラの

ひれぬヒレヌとヒレヌ水船也

いのち  
すりよ

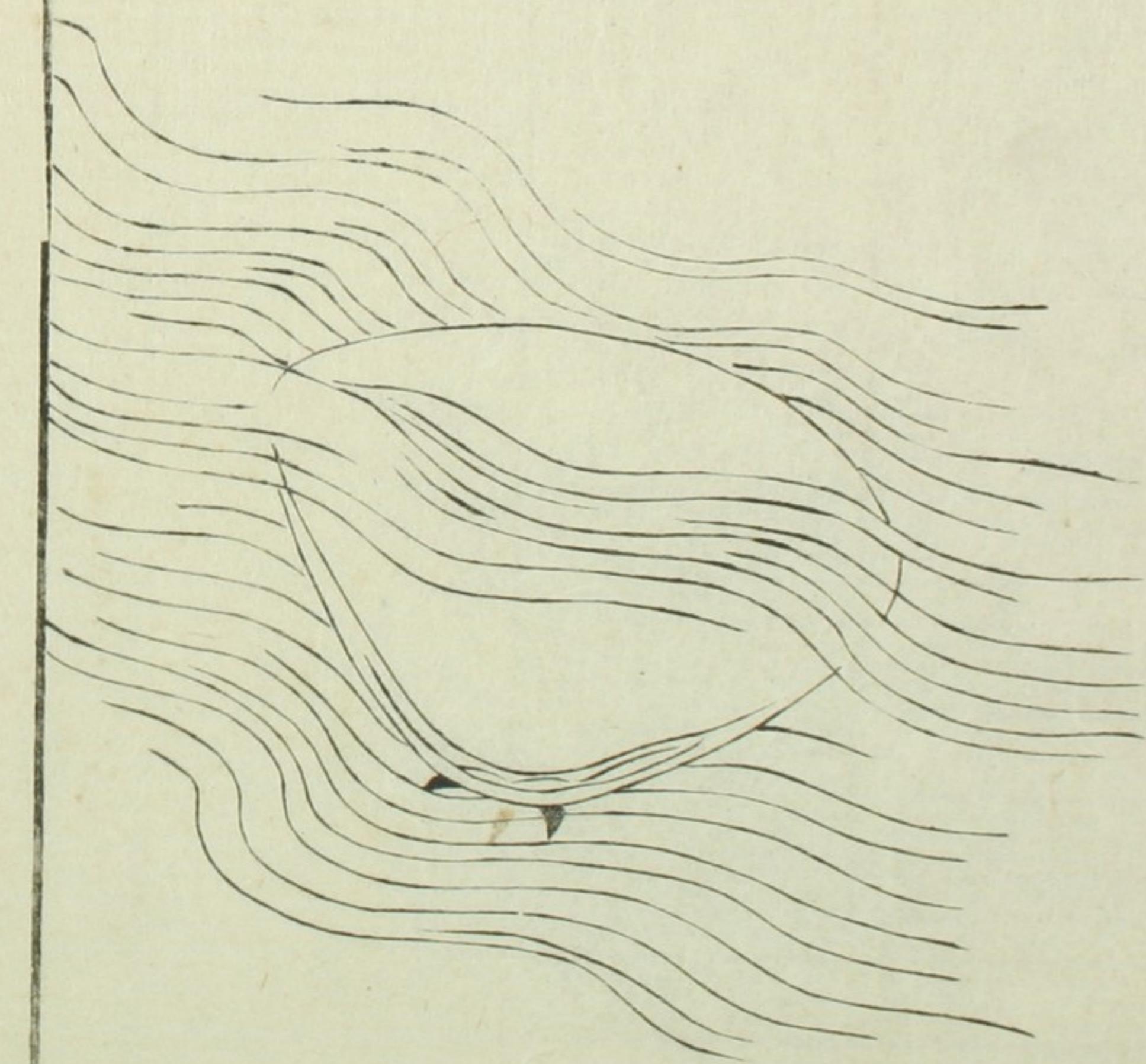
せりあせ



蚌船

五雜組曰老蚌其大如船有浣衣婦以

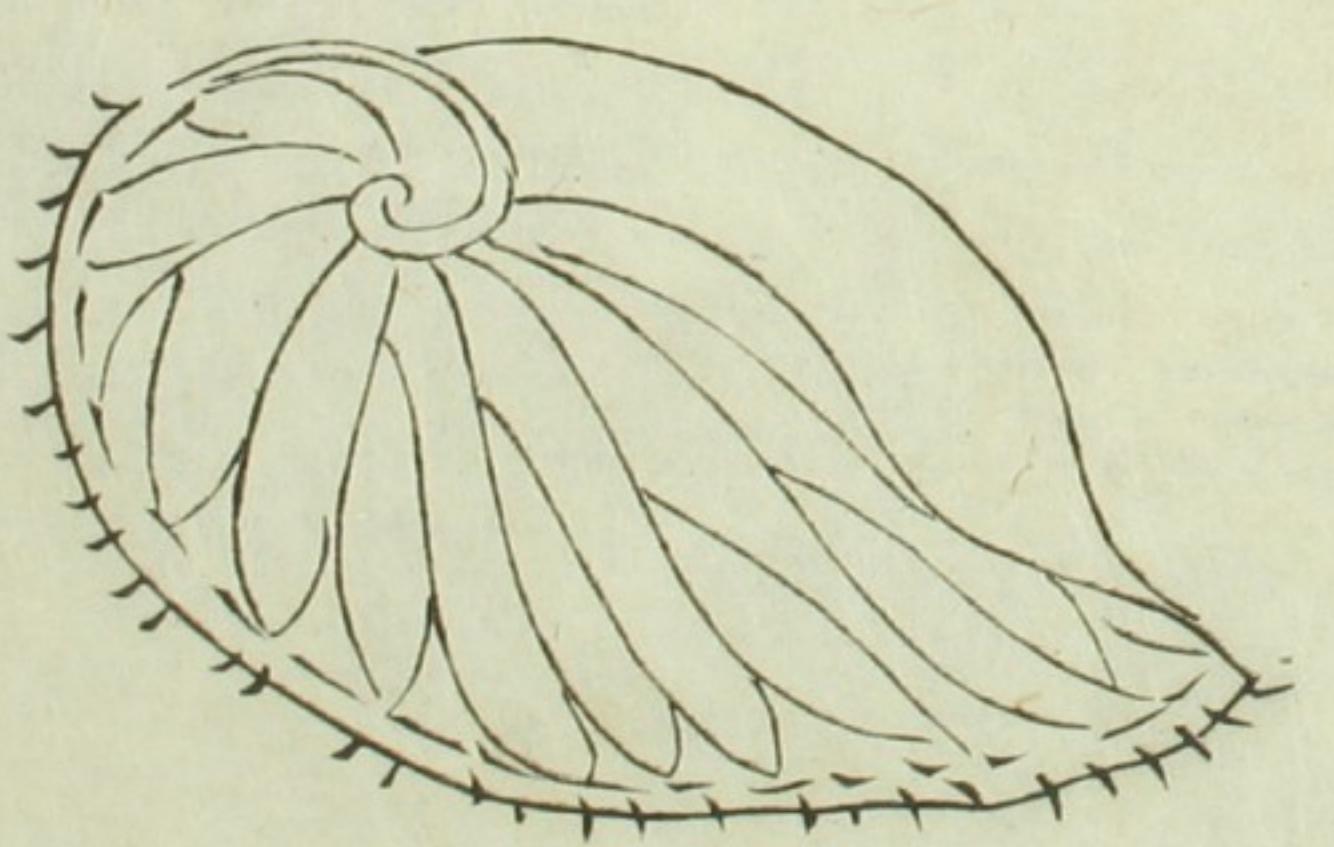
為沈船



鮀船

貝鼈又章魚舟也始貝益又曰北國又有

貝也其うもと用く海花生と云

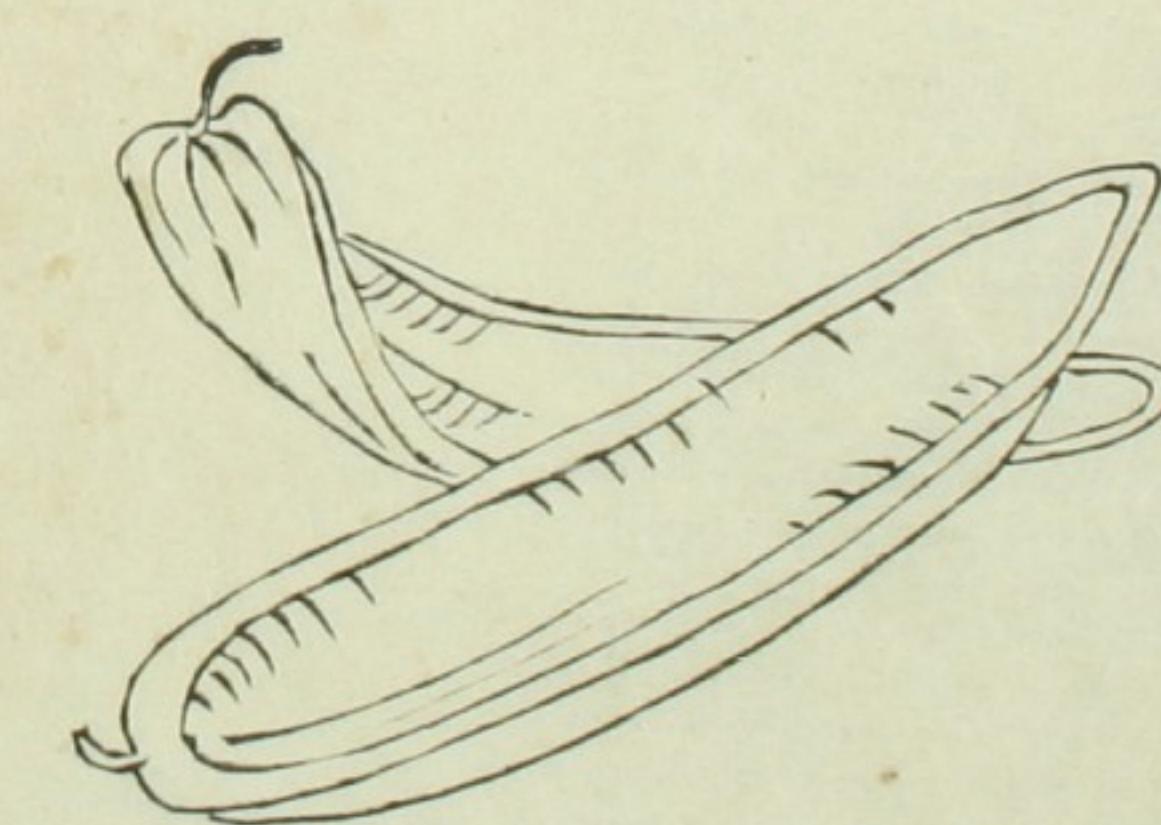


瓜舟 ウリフネ 白瓜と二つ小刻て船舡の形といつり中ふとくつて

酒糟サクとく漬ツケモねとく見ミをとく良漬ラツケと云は一斤を

争ホシとくみ乾瓜カニワとする漬滑ツケガスの音ヨメふ

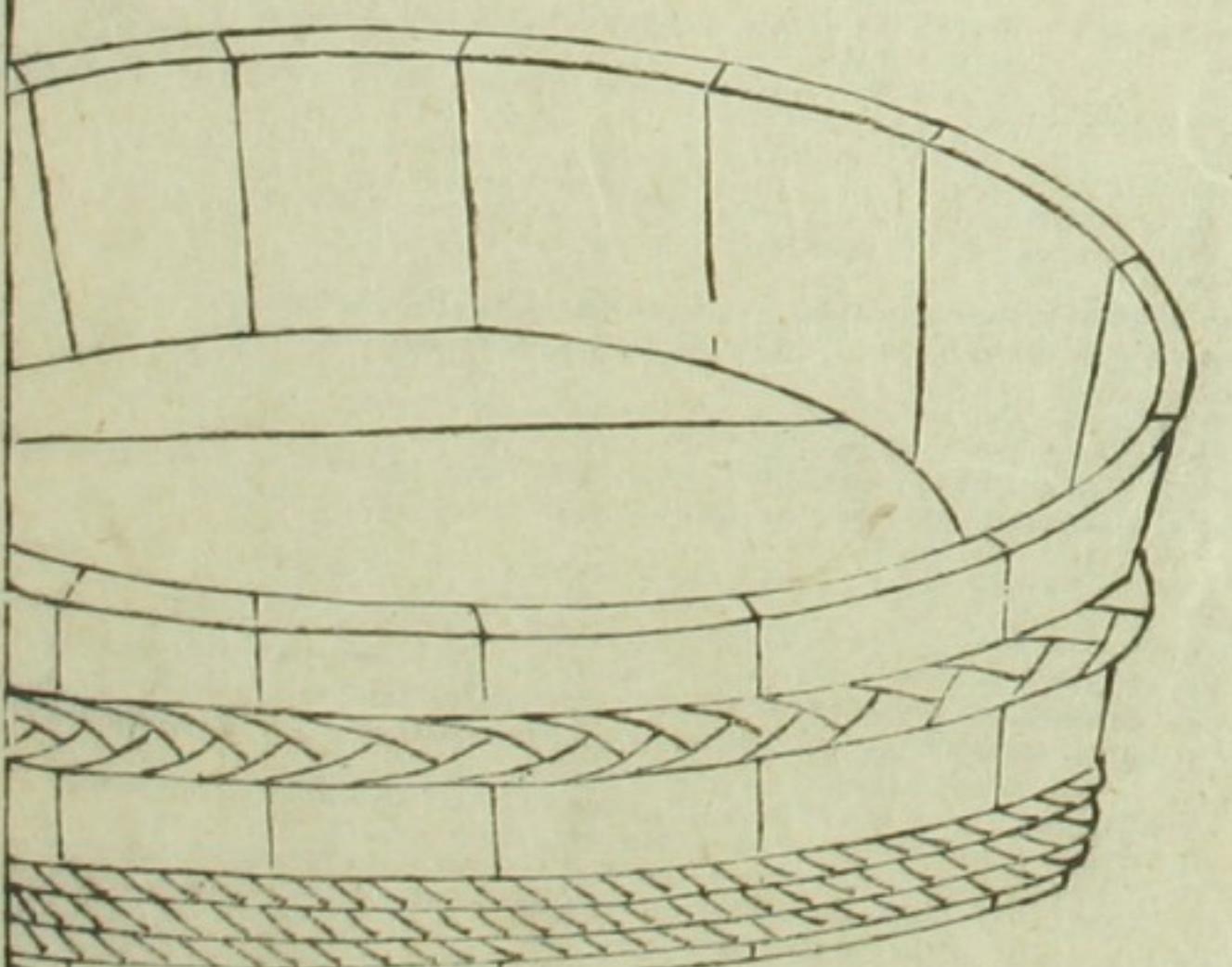
乾瓜や塩ソルのう方カタの於リ小舟



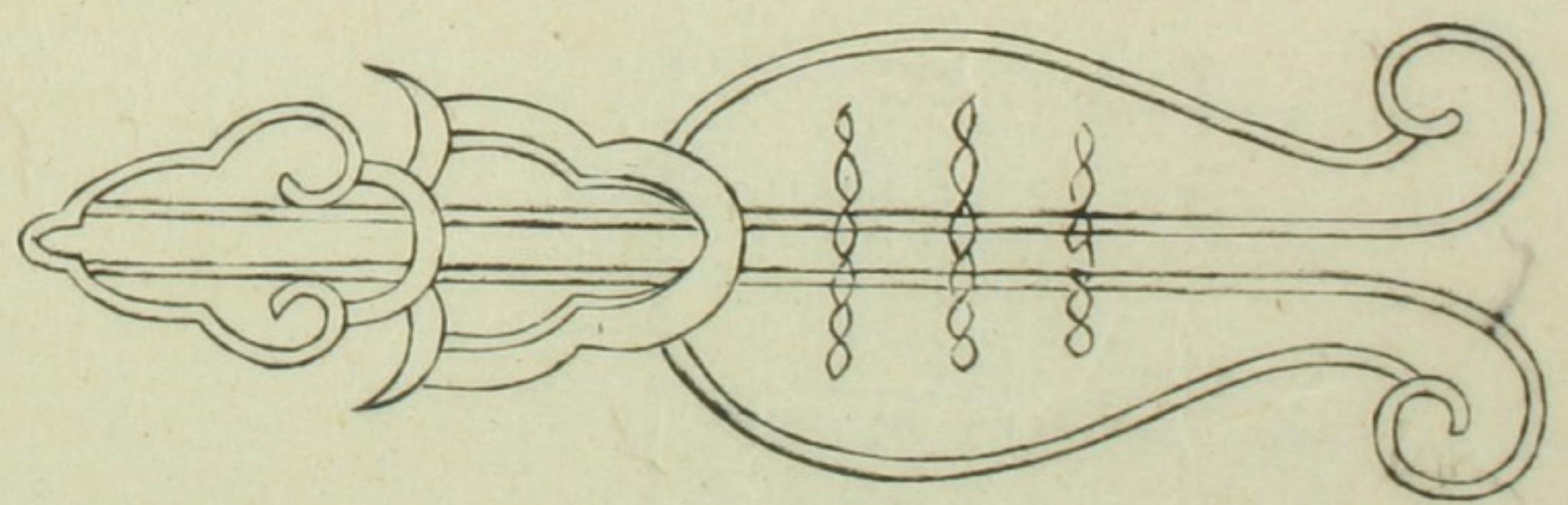
馬槽

ウマフネ 宅彙マダラよりも第アマよて馬ウマの足アシ洗アラフツ矣

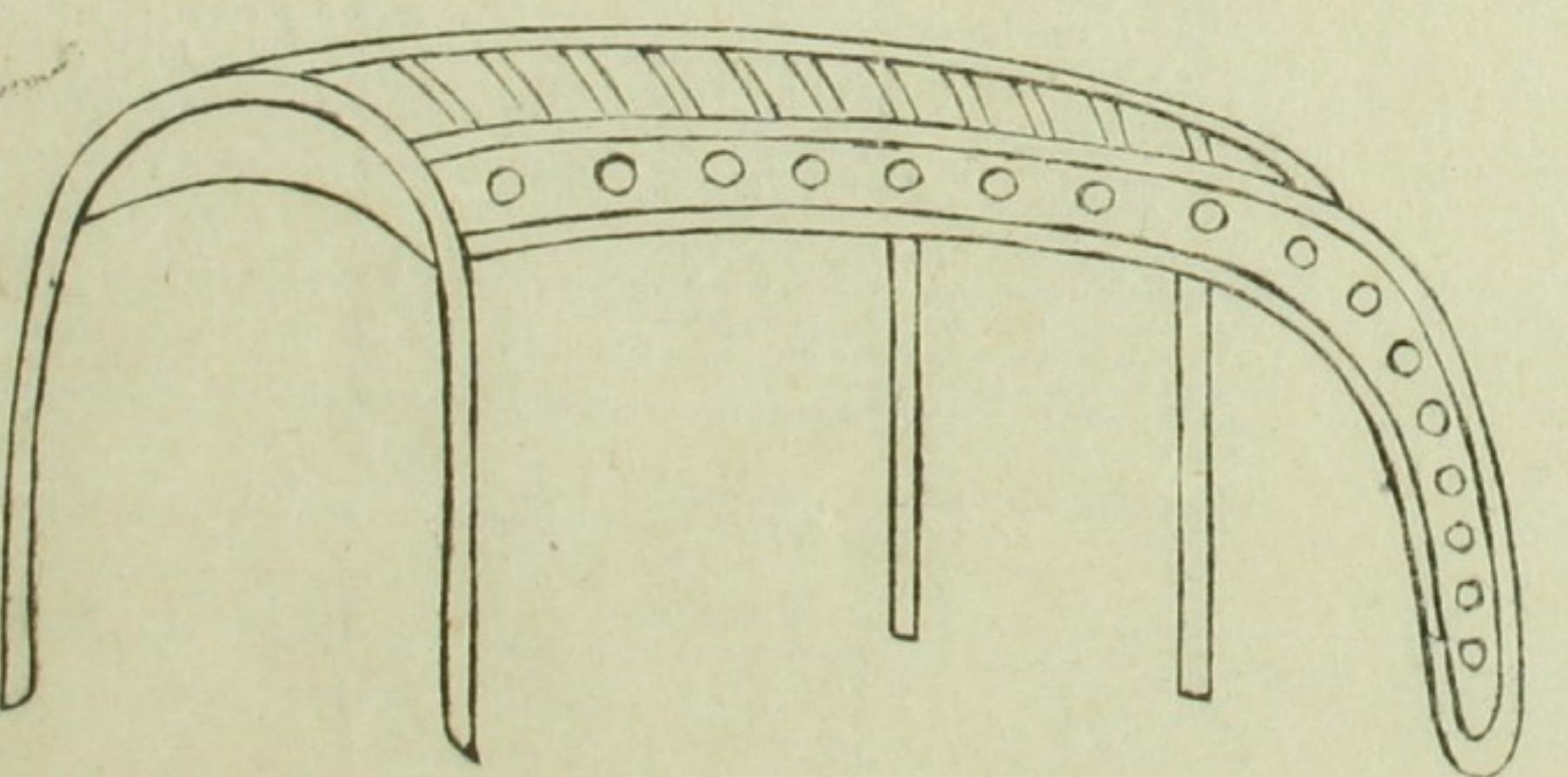
又在アリき盤タラヒも用アリすへる盤タラヒとも云



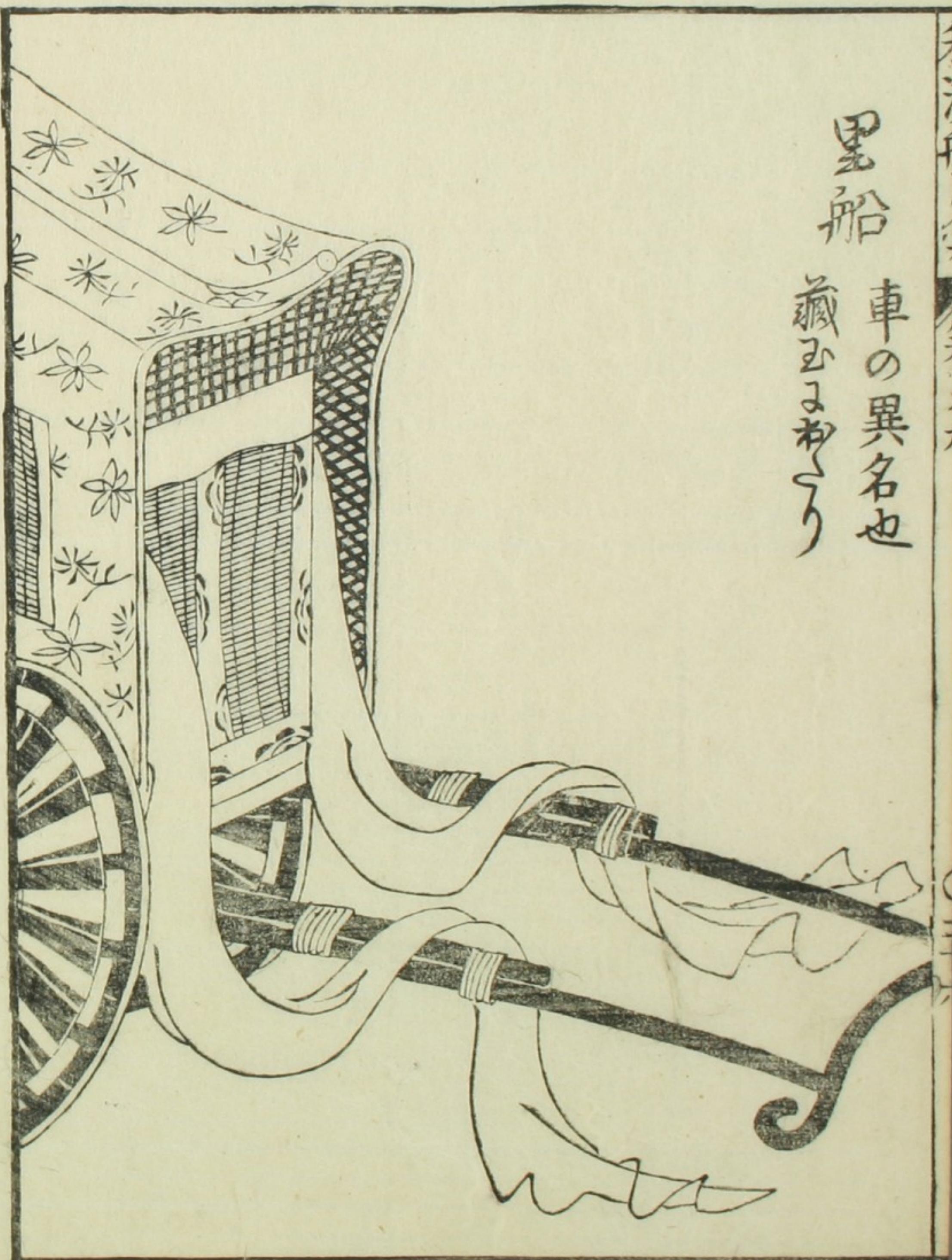
風輪船 武備志



半截船 武備志



里船 車の異名也  
藏五よやう



むかーき船 あきよ空船ヨリ別名也後れ船屋の舟ヨアウア  
のとくとく下り上りとアヘアヘ櫻集のうち此製あり  
波打と  
酒者之舟もわかれとくさんむかーき船とててあくられハ  
おも哉  
こだかーむかーき船のよろあまうるままで世とづらう  
はまくまく製  
日 今ハ我むかーき船れつすれぬあくろみのもうことめかし  
をまくまく製

### 若船之事

苦船 和名數聚曰辨色立成曰一ハ布奈夜毛那船の病舟  
醉うり去佐尾尾舟舟碎くとあくあふを碎とトアフ  
を半紀より一の文の内息所去佐の國御の浦へゆくせむ  
付津波の玉武傳と云ふある事多く波風はけ行まんかよう

てやうそたへ給ひたりあまき海人のふともよもまくも是ハ  
いふ一もんとほまつゝとれ教<sup>カホ</sup>又水とそく機<sup>トコ</sup>床<sup>アラ</sup>と作ふ  
てぬよのをとゝれは半時へりして食<sup>イキ</sup>出<sup>ス</sup>させたまうも  
今俗<sup>ス</sup>云傳<sup>シテ</sup>又<sup>テ</sup>社<sup>チ</sup>とみむれとよき<sup>ミムク</sup>をすゝ<sup>ス</sup>一<sup>タ</sup>或<sup>サキ</sup>ハ<sup>サ子</sup>拂<sup>ハシマ</sup>の慈<sup>サニ</sup>  
豆<sup>ル</sup>燒<sup>シテ</sup>水<sup>ス</sup>と然<sup>ハシマ</sup>翁<sup>シテ</sup>らりと<sup>ス</sup>モか死<sup>ハシマ</sup>也<sup>ナ</sup>又<sup>テ</sup>飢<sup>ハシマ</sup>も遂<sup>ハシマ</sup>  
食<sup>シテ</sup>さうれ教<sup>ハシマ</sup>甚<sup>ハシマ</sup>一<sup>タ</sup>きハ死<sup>ハシマ</sup>みづる毛<sup>ス</sup>と救<sup>ハシマ</sup>の法<sup>ス</sup>要改要覽<sup>ハシマ</sup>見<sup>ス</sup>

療無死饑人法

邊海有失風船飄至塘船中人饑將絕者急與食<sup>ヲ</sup>  
往往狼吞致死有煮稀粥發阜上入<sup>マ</sup>中<sup>シ</sup>饑人衝<sup>ヒ</sup>呴<sup>ハシマ</sup>  
食<sup>シ</sup>之盡生<sup>コト<sup>ハシマ</sup></sup>饑<sup>キヤウ</sup>腹<sup>ヒ</sup>微細不堪<sup>タメ</sup>頓<sup>トニ</sup>食<sup>ス</sup>也

